



2011年12月28日

# スパークス・新・国際優良日本株ファンド

## 愛称 厳選投資

追加型投信／国内／株式

### 投資信託説明書(請求目論見書)

※本書は、金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第13条の規定に基づく目論見書です。



&lt;委託会社&gt; [ファンドの運用の指図を行う者]

**スパークス・アセット・マネジメント株式会社**

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号

[照会先]

ホームページ <http://www.sparx.co.jp/>

電話番号 03-5435-8200(受付時間:営業日の9:00~17:00)

&lt;受託会社&gt; [ファンドの財産の保管及び管理を行う者]

**三菱UFJ信託銀行株式会社**

当ファンドは、主として国内の株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

有価証券届出書提出日	: 平成 23 年 6 月 28 日
発行者名	: スパークス・アセット・マネジメント株式会社
代表者の役職氏名	: 代表取締役会長兼社長 阿部 修平
本店の所在の場所	: 東京都品川区大崎一丁目 11 番 2 号 ゲートシティ大崎
届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券に係るファンドの名称	: スパークス・新・国際優良日本株ファンド
届出の対象とした募集内国投資信託 受益証券の金額	: 5,000 億円を上限とします
縦覧に供する場所	: 該当事項はありません

この投資信託説明書(請求目論見書)により行う「スパークス・新・国際優良日本株ファンド 愛称 厳選投資」の募集については、委託会社は、金融商品取引法(昭和 23 年法律第 25 号)第 5 条の規定により、有価証券届出書を平成 23 年 6 月 28 日に関東財務局長に提出しており、その届出の効力は平成 23 年 6 月 29 日に発生しております。また、同法第 7 条の規定に基づき、有価証券届出書の訂正届出書を平成 23 年 12 月 27 日に関東財務局長に提出しております。金融商品取引法第 15 条第 3 項に規定する交付の請求があったときに直ちに交付しなければならない目論見書(請求目論見書)は、投資者から請求された場合に販売会社から交付されます。なお、請求目論見書の交付を請求した場合には、その旨をご自身で記録しておくようにしてください。課税上は株式投資信託として取扱われます。

- ・投資信託は、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・投資信託は、元金および利回り保証のいずれもありません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

### 委託会社の照会先

基準価額・販売会社等につきましては、以下までお問い合わせください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

【ホームページ】<http://www.sparx.co.jp/>

【電話番号】 03-5435-8200

(受付時間: 営業日の 9:00 ~ 17:00)

# 目次

	頁番号
第一部 【証券情報】	1
第二部 【ファンド情報】	3
第1 【ファンドの状況】	3
1 【ファンドの性格】	3
2 【投資方針】	8
3 【投資リスク】	16
4 【手数料等及び税金】	18
5 【運用状況】	22
第2 【管理及び運営】	26
1 【申込（販売）手続等】	26
2 【換金（解約）手続等】	27
3 【資産管理等の概要】	28
4 【受益者の権利等】	31
第3 【ファンドの経理状況】	32
1 【財務諸表】	35
2 【ファンドの現況】	50
第4 【内国投資信託受益証券事務の概要】	50
第三部 【委託会社等の情報】	51
第1 【委託会社等の概況】	51
1 【委託会社等の概況】	51
2 【事業の内容及び営業の概況】	52
3 【委託会社等の経理状況】	53
4 【利害関係人との取引制限】	80
5 【その他】	80
< 添付 > 約款	81

## 第一部【証券情報】

### (1)【ファンドの名称】

スパークス・新・国際優良日本株ファンド

ただし、愛称として「厳選投資」という名称を用いることがあります。

(以下「ファンド」といいます。)

### (2)【内国投資信託受益証券の形態等】

追加型株式投資信託受益権です。(元本は1口=1円)

信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付はありません。また、信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供される予定の信用格付はありません。

\*ファンドの受益権は、社債、株式等の振替に関する法律(「社振法」といいます。以下同じ。)の規定の適用を受けており、受益権の帰属は後述の「(11)振替機関に関する事項」に記載の振替機関および当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)。委託者は、やむを得ない事情等がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。また、振替受益権には無記名式や記名式の形態はありません。

### (3)【発行(売出)価額の総額】

5,000億円を上限とします。

### (4)【発行(売出)価格】

購入申込受付日の基準価額\*とします。なお、午後3時までに、購入申込が行われかつ当該購入申込にかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込分とします。

\*「基準価額」とは、ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額(「純資産総額」といいます。)を計算日における受益権口数で除した1口当たりの純資産価額をいいます。基準価額は、組入有価証券等の値動き等により日々変動します。基準価額は便宜上1万口単位で表示することがあります。

ファンドの基準価額については前日の基準価額が日本経済新聞の朝刊に掲載される(掲載名:厳選投資)他、販売会社(後記(8)申込取扱場所を参照)および委託会社にお問い合わせいただければお知らせいたします。

< 委託会社の照会先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 〔ホームページ〕 <a href="http://www.sparx.co.jp/">http://www.sparx.co.jp/</a> 〔電話番号〕 03-5435-8200 (受付時間: 営業日の9:00~17:00)
--

**(5)【申込手数料】**

購入申込受付日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額です。収益分配金を再投資する場合には手数料は無手数料とします。詳しくは販売会社（後記（8）申込取扱場所を参照）までお問い合わせください。

**(6)【申込単位】**

販売会社が別に定める単位とします。

詳しくは販売会社（後記（8）申込取扱場所を参照）までお問い合わせください。

**(7)【申込期間】**

平成23年6月29日から平成24年6月27日までです。

\* 申込期間は上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

**(8)【申込取扱場所】**

販売会社にてお申込みを取扱います。

なお、販売会社については委託会社までお問い合わせください。

< 委託会社の照会先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 〔ホームページ〕 <a href="http://www.sparx.co.jp/">http://www.sparx.co.jp/</a> 〔電話番号〕 03-5435-8200 (受付時間：営業日の9：00～17：00)
---

**(9)【払込期日】**

ファンドの受益権の購入申込者は販売会社が指定する日までに申込金額を販売会社に支払うものとします。振替受益権に係る購入申込日の発行価額の総額は、追加信託が行われる日に委託者の指定する口座を經由して、受託会社の指定するファンド口座に払い込まれます。

**(10)【払込取扱場所】**

申込を受付けた販売会社でお取扱します。

販売会社については、上記(8)申込取扱場所をご参照ください。

**(11)【振替機関に関する事項】**

ファンドの受益権に係る振替機関は以下の通りです。

株式会社 証券保管振替機構

**(12)【その他】**

申込証拠金はありません。

日本以外の地域における発行は行いません。

振替受益権について

ファンドの受益権は、社振法の規定の適用を受け、前記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の振替業に係る業務規程等の規則に従って取り扱われるものとします。ファンドの分配金、償還金、換金代金は、社振法および前記「（11）振替機関に関する事項」に記載の振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われます。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

当ファンドは、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。

信託金の限度額

信託金の限度額は5,000億円です。

なお、委託会社は、受託者と合意のうえ、限度額を変更することができます。

基本的性格

当ファンドは、社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信 / 国内 / 株式」に分類されます。

当ファンドは、課税上は株式投資信託として取扱われます。

< 商品分類表 >

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信		不動産投信
	内外	その他資産 ( )
		資産複合

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

< 商品分類定義 >

1. 単位型投信・追加型投信による商品分類 : 追加型投信  
一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいいます。
2. 投資対象地域による商品分類 : 国内  
目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。
3. 投資対象資産(収益の源泉)による商品分類 : 株式  
目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

< 属性区分表 >

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域
株式	年 1 回	グローバル
一般	年 2 回	日本
大型	年 4 回	北米
中小型株	年 6 回	欧州
債券	(隔月)	アジア
一般	年 12 回	オセアニア
公債	(毎月)	中南米
社債	日々	アフリカ
その他債券	その他	中近東
クレジット	( )	(中東)
属性		エマージング
( )		
不動産投信		
その他資産		
( )		
資産複合		
( )		

(注) 当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

< 属性区分定義 >

1. 投資対象資産による属性区分 : 株式 一般  
大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいいます。
2. 決算頻度による属性区分 : 年1回  
目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいいます。
3. 投資対象地域による属性区分 : 日本  
目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいいます。

上記記載は、社団法人投資信託協会が定める分類方法に基づく商品分類および属性区分を、委託会社が目論見書又は約款の記載内容等にて、分類し記載しております。  
なお、当ファンドが該当しない商品分類および属性区分につきましては、社団法人投資信託協会のホームページ (<http://www.toushin.or.jp/>) をご参照ください。

ファンドの特色

1. 高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来る  
日本企業を中心に投資します。
2. ベンチマークは設けず、20銘柄程度に厳選投資を行います。
3. 原則として短期的な売買は行わず、長期保有することを基本とします。

< 新・国際優良企業の候補と競争力の源泉 >

今日の国際優良企業と同じように、今後成長することが期待される企業（新・国際優良企業）が日本には数多く存在すると考えております。スパークスは新・国際優良企業を発掘し、長期的に投資します。



< 新・国際優良企業とは >

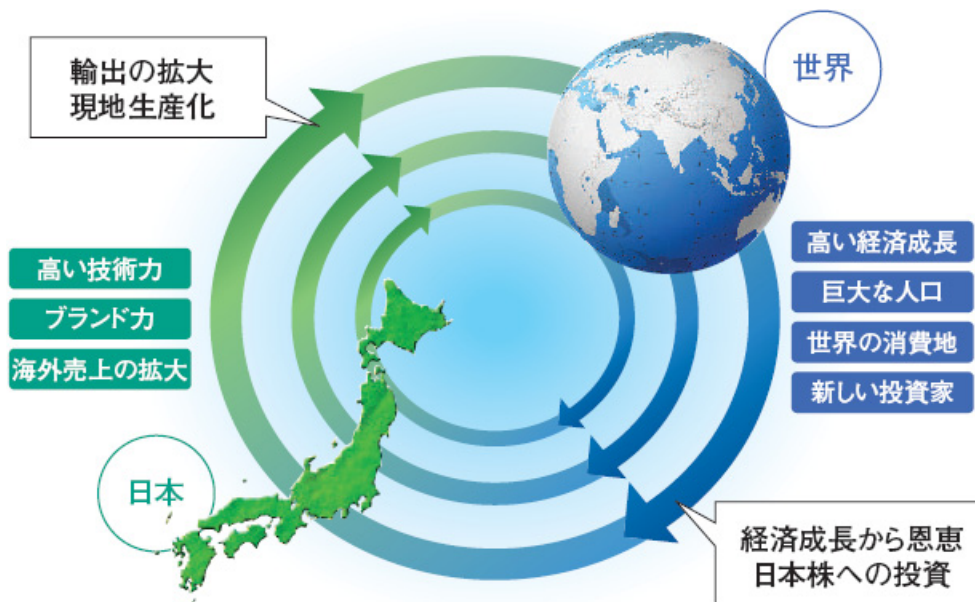
- ・ 国内市場で圧倒的なシェアを持つ。
- ・ 海外売上高比率の拡大が期待できる。
- ・ 世界的なブランド力を有することが期待できる。

新・国際優良企業の成長イメージ



< 新興国の成長を享受する新・国際優良企業 >

- ・ 海外進出に成功した企業は新興国などの世界経済の成長から恩恵を受けると考えられます。
- ・ 世界的に通用するブランドを有する企業は、外国人投資家の投資対象になる可能性が高いと考えられます。



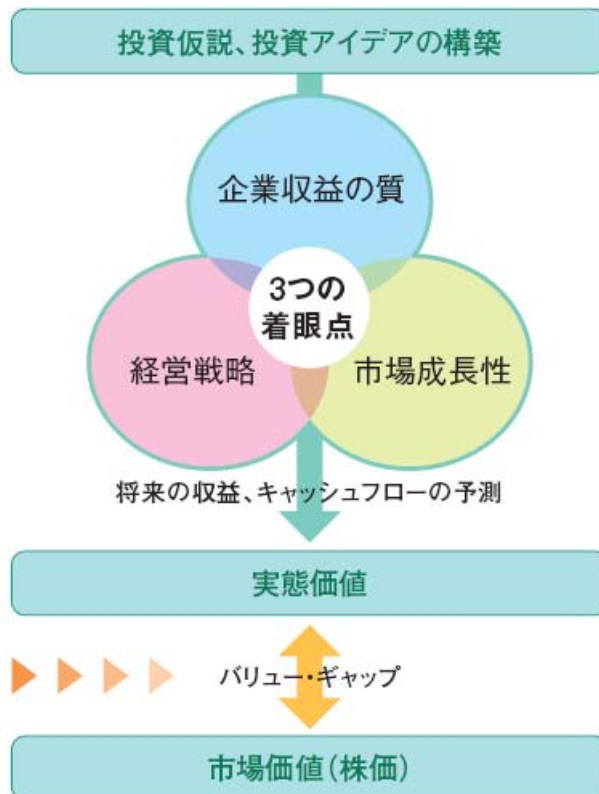
※上記はあくまでもイメージであり、将来を保証、示唆するものではありません。

### <投資プロセス>

- Step 1**  
企業訪問や調査活動を通じて、  
投資仮説や投資アイデアを検討
- Step 2**  
3つの着眼点から企業の実態価値を計測
- Step 3**  
実態価値と市場価値(株価)の差、  
バリュウ・ギャップを計測

**バリュウ・ギャップを埋める要因**

- BRICsなど新興国の経済成長
- 新興国やオイルマネー等の新たな外国人投資家の台頭
- グローバルなブランド価値の認知



市場動向やファンドの資金動向等によっては、前述のような運用ができない場合があります。

### スパークス・アセット・マネジメント株式会社について

一貫した投資哲学と運用プロセスを実践する独立系運用会社です。スパークスは、1989年の創業以来、株式市場を取り巻く環境がいかに厳しくとも「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、ボトムアップ・リサーチを行っております。

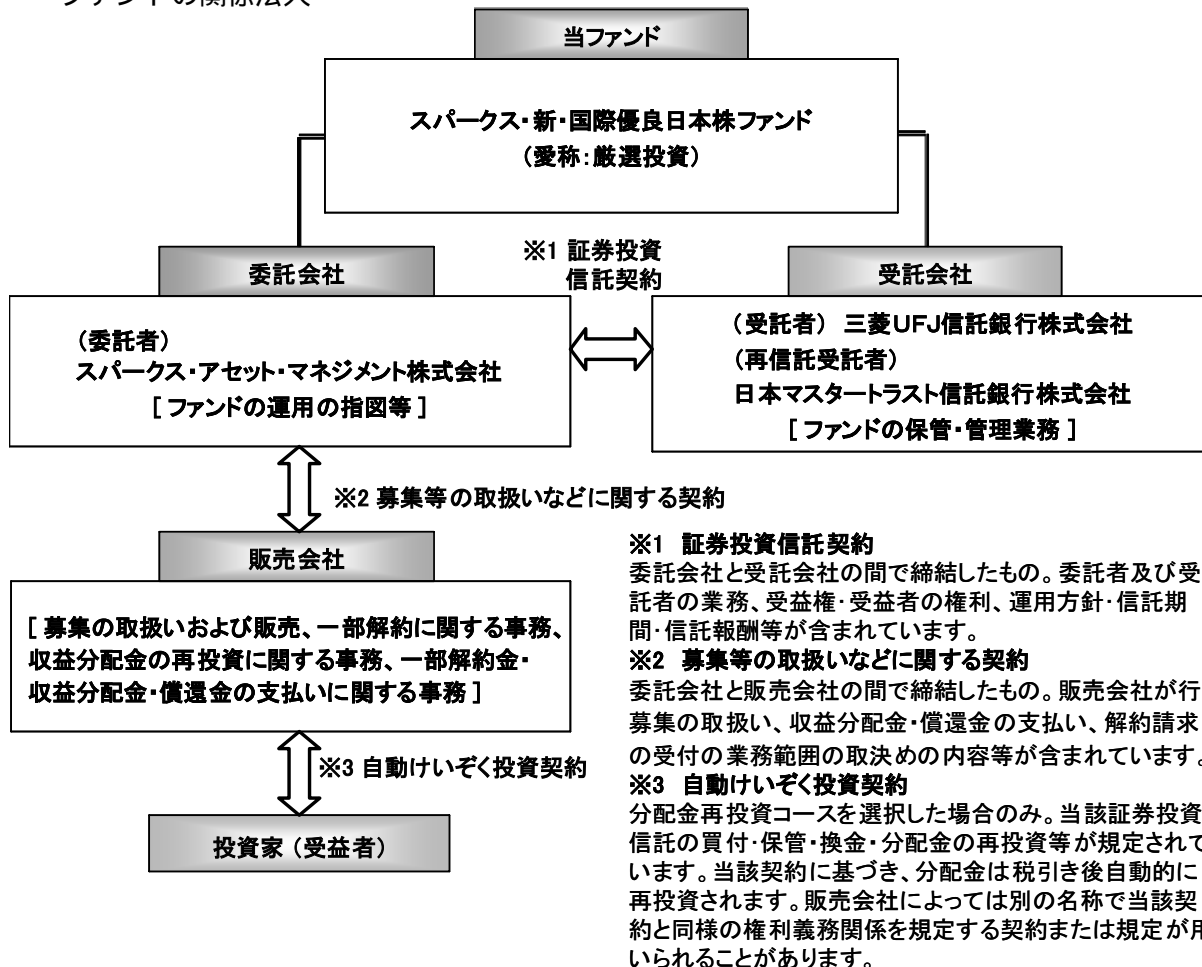
親会社であるスパークス・グループ株式会社はJASDAQ市場(銘柄コード8739)に2001年12月運用会社として初めて上場いたしました。

(2) 【ファンドの沿革】

平成20年3月28日 信託契約締結、当ファンドの設定・運用開始。

(3) 【ファンドの仕組み】

・ファンドの関係法人



・委託会社の概況

a . 資本金 25億円 (平成23年4月末日現在)

b . 会社の沿革

平成18年 4月 持株会社への移行に伴い、スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の子会社として、スパークス分割準備株式会社を設立。

平成18年 10月 商号をスパークス・アセット・マネジメント株式会社に変更。投資顧問業及び投資一任契約に係る業務並びに投資信託委託業をスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社 (現スパークス・グループ株式会社) より会社分割により承継。

平成22年 7月 スパークス証券株式会社を吸収合併し、第一種金融商品取引業を開始。

c . 大株主の状況 (平成23年4月末日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数	所有比率
スパークス・グループ株式会社	東京都品川区大崎一丁目11番2号ゲートシティ大崎	50,000株	100%

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

- ・当ファンドは、投資信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行います。
- ・主として、わが国の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来る日本企業に投資いたします。
- ・ベンチマークは設けず20銘柄程度に厳選投資を行い、原則として短期的な売買は行わず長期保有することを基本とします。
- ・株式の組入比率は信託財産総額の50%超を基本とし、原則として高位を維持します。また、株式以外の資産への投資は、原則として、信託財産総額の50%以下とします。
- ・市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準になったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

### (2)【投資対象】

主としてわが国の株式を主要投資対象とします。詳しい投資対象は以下の通りです。（約款第14条）

1. この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1) 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）

イ. 有価証券

ロ. デリバティブ取引（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、信託約款に定める次のものに限ります。）

・先物取引等

・スワップ取引

・金利先渡取引

ハ. 金銭債権

ニ. 約束手形

2) 次に掲げる特定資産以外の資産

イ. 為替手形

投資対象とする有価証券は以下の通りです。（約款第15条第1項）

1. 株券または新株引受権証書

2. 国債証券

3. 地方債証券

4. 特別の法律により法人の発行する債券

5. 社債券（新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株予約権証券を除きます。）

6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
  7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
  8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
  9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
  10. コマーシャル・ペーパー
  11. 新株予約権証券（分離型新株予約権付社債券の新株予約権証券を含みます。以下同じ。）
  12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
  13. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
  14. 投資証券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
  15. 外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
  16. オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。）
  17. 預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
  18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
  19. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
  20. 抵当証券（金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。）
  21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
  22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの
- なお、1.の証券または証書、12.ならびに17.の証券または証書のうち1の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、2.から6.までの証券および12.ならびに17.の証券または証書のうち2.から6.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、13.の証券および14.の証券を以下「投資信託証券」といいます。

#### 投資対象とする金融商品（約款第15条第2項）

1. 預金
2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。）

3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときは、委託者は、信託金を、1. から6. までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

その他の投資対象

1. 先物取引等の運用指図（約款第21条）

- イ. 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとしします。
- ロ. 委託者は、金利に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。

2. スワップ取引の運用指図（約款第22条）

- イ. 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利、または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引（以下「スワップ取引」といいます。）を行うことの指図をすることができます。
- ロ. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとしします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ハ. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等を基に算出した価額で評価するものとしします。
- ニ. 委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとしします。

3. 金利先渡取引の運用指図（約款第23条）

- イ. 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- ロ. 金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとしします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ハ. 金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額

で評価するものとします。

- 二．委託者は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

### (3)【運用体制】

スパークス・アセット・マネジメント株式会社の運用体制（平成 23 年 4 月末日現在）



当ファンドでは、平成23年4月末日現在、運用調査本部が運用・調査を担当しており、下記の意思決定プロセスに基づき、運用を行っております。

意思決定プロセス

- 運用指図の意思決定は「投資信託に係る運用管理規程」に従い、「第一投資政策委員会」において、投資環境の分析、市場動向見通し策定、期待リターンとリスクの予測などを実施、「運用計画書」において、運用戦略を審議の上、行われます。
- ファンドマネージャーは「第一投資政策委員会」において承認された運用戦略に基づき、「投資信託に係る運用管理規程」に従い、実際の投資活動を行います。第一投資政策委員会は、運用調査本部、リスク管理部門、リーガル・コンプライアンス部門の責任者等をもって構成し、原則として月2回開催する他、必要に応じ臨時開催します。

議決権の行使指図に関する基本的考え方

当社は、主として個別企業調査を重視したボトムアップ運用を行っており、当該企業の経営方針ならびにコーポレートガバナンス等に関する詳細な調査と十分な理解に基づいて、投資先企業の選定を行っています。したがって、議決権等に係る意思表示に際しては、原則として当該投資先企業の経営方針・戦略等を十分尊重したうえでこれを行います。

委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

受託会社（再信託受託会社）に対して、S A S 70（受託業務に関わる内部統制について評価する監査人の業務に関する基準）に基づく受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を受け取っており、また必要に応じて運営体制について実査することとしております。

#### (4) 【分配方針】

年1回の決算時(原則として3月27日、休業日の場合は翌営業日)に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

##### (1) 分配対象額の範囲

経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収入および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

##### (2) 分配対象収益についての分配方針

分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、収益分配を行わないこともあります。

##### (3) 留保益の運用方針

留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

上記の分配方針は将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

#### (5) 【投資制限】

信託約款で定める投資制限

1) 株式への投資割合には制限を設けません。(約款 運用の基本方針 2.運用方法 (3) 投資制限 )

2) 外貨建資産への投資は行いません。(約款 運用の基本方針 2.運用方法 (3) 投資制限 )

3) 新株予約権証券への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の20%以内とします。(約款 運用の基本方針 2.運用方法 (3) 投資制限 )

4) 投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。(約款 運用の基本方針 2.運用方法 (3) 投資制限 )

5) 投資する株式等の範囲(約款第18条)

イ. 委託者が投資することを指図する株式および新株予約権証券は、金融商品取引所等に上場されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所等に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式および新株予約権証券については、その限りではありません。

ロ. 前項の規定にかかわらず、上場予定の株式および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができるものとします。

6) 同一銘柄の転換社債等への投資制限(約款第19条)

委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。

7) 信用取引の指図範囲 (約款第20条)

- イ. 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- ロ. 前項の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ハ. 信託財産の一部解約等の事由により、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

8) 先物取引等の運用指図 (約款第21条)

- イ. 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券先物取引 (金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。)、有価証券指数等先物取引 (金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。 ) および有価証券オプション取引 (金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。 ) を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。
- ロ. 委託者は、金利に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。

9) スワップ取引の運用指図 (約款第22条)

- イ. 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利、または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引 (以下「スワップ取引」といいます。 ) を行うことの指図をすることができます。
- ロ. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ハ. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等を基に算出した価額で評価するものとします。
- ニ. 委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

10) 金利先渡取引の運用指図 (約款第23条)

- イ. 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- ロ. 金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- ハ. 金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価

額で評価するものとします。

- 二．委託者は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めたときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

#### 11) 有価証券の貸付けの指図および範囲（約款第24条）

- イ．委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する有価証券を次の各号の範囲内で貸付けの指図をすることができます。
  - a．株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
  - b．公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。
- ロ．前項 a．b．に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
- ハ．委託者は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めたときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

#### 12) 有価証券の空売りの指図範囲（約款第25条）

- イ．委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない有価証券または13)の規定により借入れた有価証券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、売付けた有価証券の引渡または買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- ロ．前項の売付けの指図は、当該売付けに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ハ．信託財産の一部解約等の事由により前項の売付けに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

#### 13) 有価証券の借入れ（約款第26条）

- イ．委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入れの指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めたときは、担保の提供の指図を行うものとします。
- ロ．前項の借入れの指図は、当該借入れに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ハ．信託財産の一部解約等の事由により前項の借入れにかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。
- ニ．イ．の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。

#### 14) 資金の借入れ（約款第32条）

- イ．委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に

- 伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。
- ハ．収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- ニ．借入金の利息は信託財産中より支弁します。

#### 法令に定められた投資制限

- 1) デリバティブ取引に係る投資制限(金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号)
- 委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。
- 2) 同一法人の発行する株式への投資制限（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）
- 委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって当該株式を取得することを受託会社に指図することが禁じられています。

### 3【投資リスク】

#### 基準価額の変動要因

当ファンドは、主として国内の株式などの値動きのある有価証券に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。従って、投資者の皆さまの投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。従って、預金保険の対象外です。また、登録金融機関による販売の場合は投資者保護基金の支払いの対象ではありません。

#### (1)株価変動リスク

一般に株価は、個々の企業の活動や一般的な市場・経済の状況、国内および国際的な政治・経済情勢等に応じて変動します。従って、当ファンドに組入れられる株式の価格は短期的または長期的に下落していく可能性があり、これらの価格変動または流動性に予想外の変動があった場合、重大な損失が生じる場合があります。

#### (2)集中投資のリスク

当ファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

#### (3)信用リスク

組入れられる株式や債券等の有価証券やコマーシャル・ペーパー等短期金融商品は、発行体に債務不履行が発生あるいは懸念される場合には価格が下がることがあり、また、投資資金を回収できなくなることがあります。

#### (4)中小型株式等への投資リスク

当ファンドは、中小型株式等へも投資します。こうした株式は、比較的新興であり、発行済株式時価総額が小さく、売買の少ない流動性の低い株式が少なくありません。その結果、こうした株式への投資はボラティリティ（価格変動率）が比較的高く、また流動性の高い株式に比べ、市況によっては大幅な安値で売却を余儀なくされる可能性があることから、より大きなリスクを伴います。

#### (5)派生商品取引のリスク

当ファンドは先物取引などの派生商品に投資することがあります。これらの運用手法は、価格変動リスクを回避する目的のみならず、効率的な運用に資する目的でも用いられることがありますが、実際の価格変動が委託会社の見通しと異なった場合に当ファンドが損失を被るリスクを伴います。

#### (6)一部解約による資金流出等に伴うリスク

当ファンドの一部解約による資金流出に伴い、基準価額が影響を受ける場合があります。大量の解約があった場合、解約代金を手当てするため保有有価証券を売却しなければならないことがあります。その際には市場動向や取引量等の状況によって、基準価額が大きく変動することがあります。

#### (7)運用制限に伴うリスク

当ファンドの運用は、規制上または社内方針等により売買を制限されることがあります。委託会社またはその関連会社（以下「委託会社グループ」）が投資を行っている（検討している場合を含む）銘柄も含め、特定の銘柄の未公開情報を受領している場合には、当該銘柄の売買が制限される場合があります。また委託会社グループが行う投資または他の運用業務に関連して、当ファンドにおいて投資にかかる売買を制限されることがあります。したがって、これらにより当ファンドの運用実績に影響を及ぼす可能性があります。

#### <その他の留意事項>

##### システムリスク・市場リスクなどに関する事項

証券市場は、世界的な経済事情の急変またはその国における天災地変、政変、経済事情の変化、政策の変更もしくはコンピューター・ネットワーク関係の不慮の出来事などの諸事情により閉鎖されることがあります。このような場合、一時的に解約等ができないこともあります。また、これらにより、一時的にファンドの運用方針に基づく運用ができなくなるリスクなどもあります。

##### 法令・税法・会計方針などの変更に関する事項

ファンドに適用される法令・税法・会計方針などは、今後変更される場合があります。

##### お申込・解約等に関する留意点

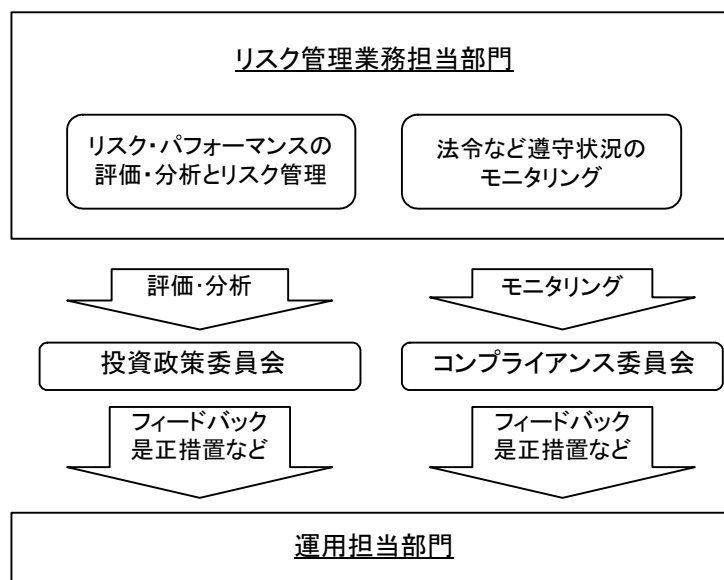
- ・委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込受付を中止することができます。
- ・信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たりの換金申込の金額に制限を設ける場合や、一定の金額を超える換金申込の受付時間に制限を設ける場合があります。

#### <その他の留意点>

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

#### <リスクの管理体制>

委託会社では、投資リスクを適切に管理するため、運用部門ではファンドの特性に沿ったリスク範囲内で運用を行うよう留意しています。また、運用部門から独立した管理担当部門によりモニタリング等のリスク管理を行っています。



上記リスク管理体制は平成23年4月末日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

#### 4 【手数料等及び税金】

##### (1) 【申込手数料】

購入申込受付日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額です。ただし、分配金を再投資する場合には手数料は無手数料とします。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

##### (2) 【換金（解約）手数料】

換金時の手数料はありません。

##### (3) 【信託報酬等】

信託報酬の額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に対し、年1.722%（税抜1.64%）の率を乗じて得た金額とします。

信託報酬に係る委託会社、販売会社および受託会社間の配分は次の通りです。

委託会社	販売会社	受託会社
年0.945% （税抜0.90%）	年0.735% （税抜0.70%）	年0.042% （税抜0.04%）

信託報酬は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末、または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとします。また信託報酬に係る消費税等相当額を信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

##### (4) 【その他の手数料等】

ファンドは以下の費用も負担します。

- 組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等の有価証券取引に係る費用
- 保管費用等
- 借入金の利息、融資枠の設定に要する費用
- 信託財産に関する租税

信託事務の処理に要する諸費用

受託会社の立替えた立替金の利息

その他下記の諸費用

- 1) 振替受益権にかかる費用ならびにやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合における発行および管理事務に係る費用
- 2) 有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書（これらの訂正も含まれます。）の作成、印刷および提出に係る費用
- 3) 目論見書および仮目論見書（これらの訂正事項分を含まれます。）の作成、販売用資料、商品内容説明資料の作成、印刷および交付に係る費用
- 4) 信託約款の作成、印刷および届出に係る費用
- 5) 運用報告書の作成、印刷および交付に係る費用
- 6) この信託の受益者に対して行う公告に係る費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成、印刷および交付に係る費用
- 7) この信託の法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用
- 8) 会計監査費用

委託者は、上記の諸費用の支払いを信託財産のために行い、その金額を合理的に見積もった結果、信託財産の純資産総額に年10,000分の10の料率を乗じて得た金額を上限とする額を、かかる諸費用の合計額とみなして、実際の金額のいかににかかわらず、信託財産より受領することができます。ただし、委託者は、信託財産の規模等を考慮して、信託の設定時または期間中に、随時、上記の料率の範囲内で諸費用の年率を見直して、それを変更することができます。

上記の諸費用は、計算期間を通じて毎日計上されます。かかる諸費用ならびに当該諸費用に対する消費税および地方消費税相当額は、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産中から委託者に対して支弁されます。

**上記手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、**

**あらかじめ表示することができません。**

#### **(5)【課税上の取扱い】**

課税上は株式投資信託として取扱われます。

原則として、益金不算入制度、配当控除の適用が可能です。

個人、法人別の課税の取扱いについて

- 1) 個人の受益者に対する課税
- ・ 収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金の源泉徴収の税率は、平成25年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）となります。なお、上記10%の税率は、平成26年1月1日以降は20%（所得税15%および地方税5%）となる予定です。

確定申告による総合課税または申告分離課税の選択も可能です。

## ・解約金および償還金に対する課税

解約時および償還時の差益は譲渡所得とみなされ、譲渡益については、申告分離課税が適用されます（特定口座（源泉徴収あり）の利用も可能です）。その税率は、平成25年12月31日までは10%（所得税7%および地方税3%）となります。平成26年1月1日以降は、20%（所得税15%および地方税5%）となる予定です。

解約時および償還時の差損については、確定申告等により上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限り、）との通算が可能です。

### 2) 法人の受益者に対する課税

法人の受益者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、平成25年12月31日までは7%（所得税7%）の税率で源泉徴収されます。地方税の源泉徴収はありません。平成26年1月1日以降は、15%（所得税15%）となる予定です。

#### 個別元本について

- 1) 追加型株式投資信託について、受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- 2) 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行う都度当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- 3) 各受益権毎に、同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については、各販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても、複数支店等で同一ファンドを取得する場合は当該支店毎に、個別元本の算出が行われる場合があります。
- 4) 受益者が特別分配金を受取った場合、分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

#### 分配金の課税について

追加型株式投資信託の分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「特別分配金」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。受益者が分配金を受取る際、a) 当該分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該分配金の金額が普通分配金となり、b) 当該分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、分配金の範囲内で、その下回る部分の額が特別分配金となり、当該分配金から当該特別分配金を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が特別分配金を受取った場合、分配金発生時にその個別元本から当該特別分配金を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

（注）上記は平成23年10月末日現在の税法によるものです。

税法が改正された場合には、上記の内容が変更になることがあります。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

<ご参考>

- ・ 税金は表に記載の時期に適用されます。
- ・ 以下の表は個人投資家の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して10%
換金(解約)時及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して10%

上記は、平成23年10月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

法人の場合は上記とは異なります。

税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

以下は2011年10月31日現在の状況です。

投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

投資比率の内訳と合計は四捨五入の関係で合わない場合があります。

### (1)【投資状況】

資産の種類	国名	時価合計 (円)	投資比率 (%)
株式	日本	614,582,700	98.18
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		11,368,359	1.82
合計(純資産総額)		625,951,059	100.00

### (2)【投資資産】

#### 【投資有価証券の主要銘柄】(全銘柄)

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	上段：簿価単価 (円) 下段：評価単価 (円)	上段：簿価金額 (円) 下段：評価金額 (円)	投資比率 (%)
1	日本	株式	キーエンス	電気機器	6,200	20,450.00 20,180.00	126,790,000 125,116,000	19.99
2	日本	株式	三菱商事	卸売業	51,900	2,119.58 1,641.00	110,006,666 85,167,900	13.61
3	日本	株式	フジシールインターナショナル	その他製品	53,000	1,611.00 1,501.00	85,383,000 79,553,000	12.71
4	日本	株式	アシックス	その他製品	62,700	1,065.00 1,054.00	66,775,500 66,085,800	10.56
5	日本	株式	花王	化学	30,800	2,087.00 2,071.00	64,279,600 63,786,800	10.19
6	日本	株式	マニー	精密機器	17,300	2,857.00 2,779.00	49,426,100 48,076,700	7.68
7	日本	株式	良品計画	小売業	11,900	3,170.00 3,735.00	37,723,000 44,446,500	7.10
8	日本	株式	ミスミグループ本社	卸売業	26,500	1,960.00 1,658.00	51,940,000 43,937,000	7.02
9	日本	株式	ロート製薬	医薬品	40,000	870.00 906.00	34,800,000 36,240,000	5.79
10	日本	株式	住友商事	卸売業	13,000	1,183.00 987.00	15,379,000 12,831,000	2.05
11	日本	株式	ユニ・チャーム	化学	2,100	3,040.00 3,520.00	6,384,000 7,392,000	1.18
12	日本	株式	シマノ	輸送用機器	500	3,915.00 3,900.00	1,957,500 1,950,000	0.31

(注) 当ファンドの2011年10月31日現在の保有銘柄数は12銘柄です。

#### 種類別及び業種別投資比率

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	その他製品	23.27
		卸売業	22.68
		電気機器	19.99
		化学	11.37
		精密機器	7.68
		小売業	7.10
		医薬品	5.79
		輸送用機器	0.31
		合計	98.18

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

期	年月日	純資産総額(円) (分配落)	純資産総額(円) (分配付)	1口当たり 純資産額 (円) (分配落)	1口当たり 純資産額 (円) (分配付)
1期	(2009年3月27日)	707,325,816	707,325,816	0.8318	0.8318
2期	(2010年3月29日)	826,239,047	826,239,047	1.0286	1.0286
3期	(2011年3月28日)	665,229,732	665,229,732	0.9587	0.9587
	2010年10月末日	668,436,165	-	0.9172	-
	2010年11月末日	700,681,116	-	0.9654	-
	2010年12月末日	729,634,113	-	1.0266	-
	2011年1月末日	721,787,254	-	1.0267	-
	2011年2月末日	716,566,687	-	1.0263	-
	2011年3月末日	691,105,969	-	0.9962	-
	2011年4月末日	686,188,934	-	0.9852	-
	2011年5月末日	682,046,405	-	0.9793	-
	2011年6月末日	704,158,226	-	1.0087	-
	2011年7月末日	691,177,345	-	1.0092	-
	2011年8月末日	645,732,004	-	0.9354	-
	2011年9月末日	647,058,236	-	0.9370	-
	2011年10月末日	625,951,059	-	0.9053	-

【分配の推移】

期	計算期間	1口当たりの分配金 (円)
1期	自 2008年3月28日 至 2009年3月27日	0.0000
2期	自 2009年3月28日 至 2010年3月29日	0.0000
3期	自 2010年3月30日 至 2011年3月28日	0.0000

【収益率の推移】

期	計算期間	前期末 1口当たり純資産 (分配落)円	当期末 1口当たり純資産 (分配付)円	収益率 %
1期	自 2008年3月28日 至 2009年3月27日	1.0000	0.8318	16.8
2期	自 2009年3月28日 至 2010年3月29日	0.8318	1.0286	23.7
3期	自 2010年3月30日 至 2011年3月28日	1.0286	0.9587	6.8
4期 (中間期)	自 2011年3月29日 至 2011年9月28日	0.9587	0.9331	2.7

(注) 収益率は、計算期間末の1口当たり純資産額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の1口当たり純資産額(分配落の額。以下「前期末純資産額」という。)を控除した額を前期末純資産額で除して得た数に100を乗じて得た数字です。分配金は課税前のものです。

**(4)【設定及び解約の実績】**

期	計算期間	設定口数 (口)	解約口数 (口)
1期	自 2008年3月28日 至 2009年3月27日	1,061,313,824 (0)	210,936,770 (0)
2期	自 2009年3月28日 至 2010年3月29日	59,389,043 (0)	106,528,260 (0)
3期	自 2010年3月30日 至 2011年3月28日	62,366,507 (0)	171,719,659 (0)
4期 (中間期)	自 2011年3月29日 至 2011年9月28日	38,287,573 (0)	41,481,109 (0)

(注1) ( )内の数字は本邦外における設定、解約口数です。

(注2) 設定口数には当初募集期間中の設定口数を含みます。

(参考情報)

運用実績

(2011年10月31日現在)

基準価額・純資産総額の推移、分配の推移

■基準価額(税引前分配金再投資ベース)・純資産総額の推移

当初設定日(2008年3月28日)~2011年10月31日



■基準価額と純資産総額

項目	金額
基準価額(1万口当たり)	9,053円
純資産総額	6.3億円

■分配の推移(1万口当たり、税引前)

2011年3月	0円
2010年3月	0円
2009年3月	0円
設定来累計	0円

※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は信託報酬控除後のものであり、税引前分配金を再投資したものと計算したものです。

主要な資産の状況

■資産配分

資産の種類	比率
株式	98.2%
キャッシュ等	1.8%

■組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	比率
1	キーエンス	電気機器	20.0%
2	三菱商事	卸売業	13.6%
3	フジシールインターナショナル	その他製品	12.7%
4	アシックス	その他製品	10.6%
5	花王	化学	10.2%
6	マニー	精密機器	7.7%
7	良品計画	小売業	7.1%
8	ミスミグループ本社	卸売業	7.0%
9	ロート製薬	医薬品	5.8%
10	住友商事	卸売業	2.0%

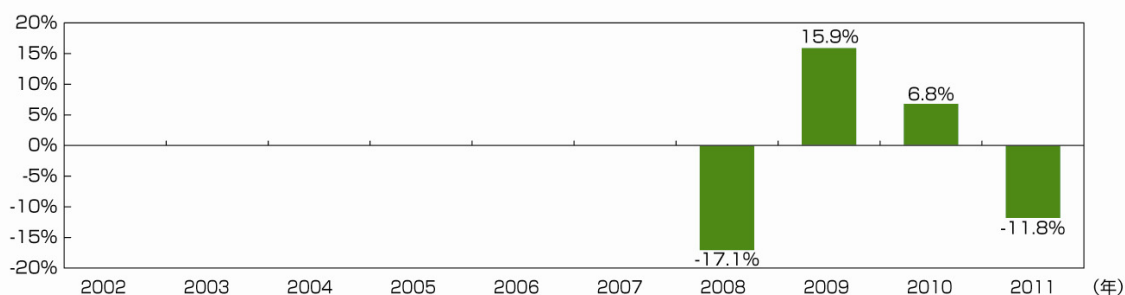
■組入上位10業種

	業種	比率
1	その他製品	23.3%
2	卸売業	22.7%
3	電気機器	20.0%
4	化学	11.4%
5	精密機器	7.7%
6	小売業	7.1%
7	医薬品	5.8%
8	輸送用機器	0.3%

※当ファンドの組入業種は8業種です。

※比率はファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

年間収益率の推移



※年間収益率は基準価額(税引前分配金再投資ベース)をもとに算出した騰落率です。

※2008年は設定日(2008年3月28日)から年末までの収益率、2011年は1月1日から10月末までの収益率を表示しています。

※当ファンドはベンチマークはありません。

※上記の運用実績は過去のものであり、将来の運用成果等を予想あるいは保証するものではありません。

※最新の運用実績については別途開示しており、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

(1) 販売会社で毎営業日に購入申しいただけます。

購入単位は販売会社が別に定める単位とします。

詳しくは販売会社までお問い合わせください。

(2) 購入申込時限

申込期間は平成23年6月29日から平成24年6月27日までです。

\* 申込期間は上記期間満了前に有価証券届出書を提出することにより更新されます。

申込の受付は、原則として午後3時までです。当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。なお、販売会社によって受付時間が異なる場合があります。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

(3) 購入申込に係る制限

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入申込受付を中止することおよびすでに受け付けた購入申込受付を取り消すことができます。

また、委託会社は、信託財産の安定した運用と受益者の公平性に資するため、受益権の購入申込に対して制限を設けることがあります。

(4) 購入価額

購入申込受付日の基準価額です。

(5) 購入時手数料

購入申込受付日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、3.15%（税抜3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額です。ただし、分配金を再投資する場合には手数料は無手数料とします。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

(6) 購入代金の支払い

販売会社が指定する期日までにお支払いください。

\* 購入申込者は販売会社に、購入申込と同時にまたは予め、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該購入申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該購入申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託者は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため、社債、株式等の振替に関する法律（「社振法」といいます。以下同じ。）に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定に従い、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託者は、追加信託により生じた受益権については追加信託の都度、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

## 2【換金（解約）手続等】

(1) 販売会社で毎営業日に換金申請ができます。

換金単位は、販売会社が別に定める単位とします。

詳しくは販売会社までお問い合わせください。

(2) 換金申込時限

申込の受付は、原則として午後3時までです。当該受付時間を過ぎた場合は翌営業日の受付となります。なお、販売会社によって受付時間が異なる場合があります。詳しくは販売会社までお問い合わせください。

(3) 換金価額

換金申込受付日の基準価額から当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した額とします。

信託財産留保額とは、解約に伴う資産売却などに対応するコストを換金時にご負担いただくものです。信託財産留保額は、ファンドに留保されるものであり、これにより、換金した受益者と保有を継続される受益者との公平性を図るものです。

(4) 換金制限

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、換金申込の受付を中止することができます。換金申込の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金申込を撤回できます。ただし、受益者がその換金申込を撤回しない場合には、当該受益権の換金価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金申込を受付けたものとして、当該計算日の基準価額とします。

また、信託財産の資金管理を円滑に行うため、1顧客1日当たりの換金の金額に制限を設ける場合や一定の金額を超える換金申込の受付時間に制限を設ける場合があります。

(5) 換金（解約）手数料

換金（解約）時の手数料はありません。

(6) 換金代金の支払い

換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。

\* 換金申込を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定に従い当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

ファンドに属する有価証券等の時価評価は、原則として、市場価額のある有価証券についてはその終値（終値のないものについてはそれに準ずる価額）、市場価額のない有価証券については取得価額、未上場の投資信託証券については基準価額に基づいて評価します。ただし、社団法人投資信託協会規則に従い、残存期間1年以内の公社債等については、原則として、取得価額と償還価額の差額を日割計算して得た金額を日々帳簿価額に加算又は減算した額で評価します。

「基準価額」とは、ファンドの資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権口数で除した1口当たりの純資産価額をいいます。基準価額は、組入有価証券等の値動き等により日々変動します。基準価額は便宜上1万口単位で表示することがあります。なお、基準価額につきましては、前日の基準価額が日本経済新聞の朝刊に掲載される（掲載名：厳選投資）他、委託会社、販売会社にお問い合わせいただければ、お知らせいたします。

< 委託会社の照会先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社 〔ホームページ〕 <a href="http://www.sparx.co.jp/">http://www.sparx.co.jp/</a> 〔電話番号〕 03-5435-8200 (受付時間：営業日の9：00～17：00)
---

#### (2)【保管】

該当事項はありません。

#### (3)【信託期間】

信託期間は、平成20年3月28日から平成30年3月27日までとします。

ただし、下記(5)その他 ファンドの償還条件に該当する場合は信託期間中においても信託を終了することがあります。また、委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議の上、信託期間を延長することができます。

#### (4)【計算期間】

計算期間は、毎年3月28日から翌年3月27日とすることを原則とします。各計算期間終了日に該当する日が休業日のときは該当日の翌営業日を計算期間の終了日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

年1回の決算時（原則として3月27日、休業日の場合は翌営業日）に約款に定める「収益分配方針」に基づいて、収益の分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わない場合もあります。

（分配金再投資コースを選択の場合）

分配金は税引後無手数料で再投資され、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。この場合、1口単位での申込となり、手数料はかかりません。

（分配金受取コースを選択の場合）

原則として決算日から起算して5営業日目までに支払を開始します。

\* 分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該分配金に係る決算日以前に設定された受益権で購入申込代金支払い前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として購入申込者とします。）に、原則として決算日から起算して5営業日目までにお支払いを開始します。「分配金再投資コース」をお申込の場合は、分配金は税引後無手数料で再投資されますが、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

#### (5) 【その他】

##### ファンドの償還条件

イ．委託者は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより、この信託に係る受益権の口数が20億口を下回ったとき、繰上償還することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、繰上償還させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、繰上償還しようとする旨を監督官庁に届出ます。

ロ．委託者は、イの事項に従い、信託期間を終了させるには、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の2週間前までに、この信託契約に係る知られたる受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

ハ．ロの書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知られたる受益者が議決権を行行使しないときは、当該知られたる受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

ニ．ロの書面決議は議決権を行行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。

ホ．ロからハまでの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、ロからハまでに規定するこの信託契約を解約の手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

##### 信託約款の変更

イ．委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託

の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとし、

ロ. 委託者は、イの事項(イの変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合には限ります。以下、併合と合わせて「重大な約款の変更等」といいます。)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知られたる受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

ハ. ロの書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受益者を除きます。以下本項において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知られたる受益者が議決権を行使しないときは、当該知られたる受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

ニ. ロの書面決議は議決権を行使することができる受益者の半数以上であつて、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行います。

ホ. 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

ヘ. ロからホまでの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

ト. イからへの規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一又は複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

#### 関係法人との契約更改等に関する手続き

販売会社との「募集・販売の取扱い等に関する契約」については、期間満了の3ヵ月前までに別段の意思表示のないときは、自動的に1年間延長されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

#### 運用報告書

委託会社は、ファンドの計算期間終了後および償還後に期中の運用経過、組入有価証券の内容および有価証券の売買状況などを記載した「運用報告書」を作成し、販売会社を通じて知られたる受益者に交付します。

#### 公告

委託者が受益者に対してする公告は、電子公告により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.sparx.co.jp/>

なお、事故その他やむを得ない事由によって公告を電子公告によって行うことが出来ない場合には、日本経済新聞に掲載することとします。

#### 4【受益者の権利等】

##### 収益分配金・償還金受領権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金・償還金を、持ち分に応じて委託会社から受領する権利を有します。収益分配金は、原則として、決算日から起算して5営業日目までに支払を開始します。償還金については、原則として信託終了日から起算して5営業日目までに支払を開始します。また、受益者が収益分配金については支払開始日から5年間、償還金については支払開始日から10年間請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

##### 受益権の一部解約請求権

受益者は、受益権の一部解約を、販売会社を通して委託会社に請求することができます。

##### 反対者の買取請求権

繰上償還または約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託者に対して異議を述べた受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

##### 受益権均等分割

受益者は、所有する受益権の口数に応じて均等に当ファンドの受益権を保有します。受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生じることはありません。

##### 帳簿閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当ファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)(以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当ファンドの財務諸表等に係わる財務諸表等規則並びに投資信託財産計算規則の改正についての対応状況は、下表の通りであります。

財務諸表等規則並びに投資信託財産計算規則改正		第2期計算期間 自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日	第3期計算期間 自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日
財務諸表等規則	平成20年8月7日付 内閣府令第50号	同府令第2条第1項、及び第2項による経過措置を適用し、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。	同府令第2条第2項による経過措置を適用し、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。
	平成22年9月30日付 内閣府令第45号	改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。	同府令第3条第1項による経過措置を適用し、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。
投資信託財産計算規則	平成21年6月24日付 内閣府令第35号	同府令第16条第2項による経過措置を適用し、改正前の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。	改正後の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。

2) 財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づいて、第2期計算期間(平成21年3月28日から平成22年3月29日まで)、及び第3期計算期間(平成22年3月30日から平成23年3月28日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による「財務諸表等の監査証明に関する内閣府令」(昭和32年大蔵省令第12号)第3条第1項に基づく監査を受けております。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年5月21日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社


取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

英 久一 

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

伊藤雅人 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成21年3月28日から平成22年3月29日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成22年3月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 独立監査人の監査報告書

平成23年5月20日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

英 以 一 

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

伊藤 雅人 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成22年3月30日から平成23年3月28日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成23年3月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

1【財務諸表】  
 スパークス・新・国際優良日本株ファンド  
 (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第2期計算期間末 (平成22年3月29日現在)	第3期計算期間末 (平成23年3月28日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	14,913,382	7,518,445
株式	813,164,900	661,507,700
未収入金	2,197,386	1,987,877
未収配当金	5,982,430	1,397,250
未収利息	20	10
流動資産合計	836,258,118	672,411,282
資産合計	836,258,118	672,411,282
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払解約金	2,828,553	814,215
未払受託者報酬	165,301	146,383
未払委託者報酬	6,612,085	5,855,125
その他未払費用	413,132	365,827
流動負債合計	10,019,071	7,181,550
負債合計	10,019,071	7,181,550
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	<sup>1</sup> 803,237,837	<sup>1</sup> 693,884,685
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	<sup>2</sup> 23,001,210	<sup>2</sup> 28,654,953
(分配準備積立金)	36,030,838	28,874,873
元本等合計	826,239,047	665,229,732
純資産合計	826,239,047	665,229,732
負債純資産合計	836,258,118	672,411,282

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第2期計算期間		第3期計算期間	
	自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日		自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日	
営業収益				
受取配当金	10,843,330		6,873,690	
受取利息	4,898		5,303	
有価証券売買等損益	165,993,323		44,858,641	
その他収益	427		235	
営業収益合計	176,841,978		37,979,413	
営業費用				
受託者報酬	323,678		299,521	
委託者報酬	12,947,126		11,980,647	
その他費用	807,273		748,555	
営業費用合計	14,078,077		13,028,723	
営業利益又は営業損失( )	162,763,901		51,008,136	
経常利益又は経常損失( )	162,763,901		51,008,136	
当期純利益又は当期純損失( )	162,763,901		51,008,136	
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	10,547,500		4,465,980	
期首剰余金又は期首欠損金( )	143,051,238		23,001,210	
剰余金増加額又は欠損金減少額	17,671,384		-	
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	17,671,384		-	
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,835,337		5,114,007	
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-		4,359,324	
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	3,835,337		754,683	
分配金	1 0		1 0	
期末剰余金又は期末欠損金( )	23,001,210		28,654,953	

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区分	第2期計算期間		第3期計算期間	
	自	平成21年3月28日 至 平成22年3月29日	自	平成22年3月30日 至 平成23年3月28日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	「株式」 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、または金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。		「株式」 同左	
2. 収益及び費用の計上基準	(1) 「受取配当金」 受取配当金は、原則として株式の配当落ち日もしくは投資証券の権利落ち日において、確定配当金額もしくは確定収益分配金額、又は予想配当金額もしくは予想収益分配金額を計上しております。 (2) 「有価証券売買等損益」 約定日基準で計上しております。		(1) 「受取配当金」 同左  (2) 「有価証券売買等損益」 同左	
3. その他	当ファンドは、原則として毎年3月27日を計算期間の末日としておりますが、当計算期間においては当該日が休業日であるため、当計算期間を平成21年3月28日から平成22年3月29日としております。		当ファンドは、原則として毎年3月27日を計算期間の末日としておりますが、前計算期間においては当該日が休業日であり、また当計算期間においても当該日が休業日であるため、当計算期間を平成22年3月30日から平成23年3月28日としております。	

## 注) 追加情報

「投資信託財産の評価及び計理等に関する規則」の改正により、平成21年9月24日以降、ジャスダック上場株式会社については基準値段での評価から最終相場で評価する方法に変更しました。

## (貸借対照表に関する注記)

区分	第2期計算期間末		第3期計算期間末	
	(平成22年3月29日現在)		(平成23年3月28日現在)	
1 計算期間末日における受益権の総数	803,237,837 口		693,884,685 口	
2 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損	-		28,654,953 円	
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.0286 円 (10,286 円)		0.9587 円 (9,587 円)	

( 損益及び剰余金計算書に関する注記 )

第 2 期計算期間 自 平成 21 年 3 月 28 日 至 平成 22 年 3 月 29 日	第 3 期計算期間 自 平成 22 年 3 月 30 日 至 平成 23 年 3 月 28 日
1 分配金の計算過程 該当事項はありません。	1 分配金の計算過程 該当事項はありません。

( 金融商品に関する注記 )

( 1 ) 金融商品の状況に関する事項

区分	第2期計算期間 自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日	第3期計算期間 自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日
1. 金融商品に対する取組方針		当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第 2 条第 4 項に定める証券投資信託であり、当ファンドは、信託約款に定める運用の基本方針に基づき運用を行っています。
2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク		<p>金融商品の内容</p> <p>当ファンドの当計算期間において投資した金融商品の種類は、以下の通りであります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券 当ファンドが当計算期間の末日時点で保有する有価証券の詳細は、「(その他の注記) 2. 有価証券関係」の通りであります。</li> <li>・コールローン等の金銭債権及び金銭債務</li> </ul> <p>金融商品に係るリスク</p> <p>当ファンドは、以下のリスクを内包しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A) 市場リスク <ul style="list-style-type: none"> <li>・株価等変動リスク</li> </ul> </li> <li>B) 流動性リスク</li> <li>C) 信用リスク</li> </ul>
3. 金融商品に係るリスク管理体制		<p>弊社では、上記 2 の に掲げるリスクを適切に管理するため、運用部門から独立した管理担当部門によりモニタリング等のリスク管理を行っています。</p> <p>体制としては、リスク管理業務担当部門を中心として、リスク管理を行っています。また、リスク管理業務担当部門を中心として、随時レビューが行われる他、月次の投資政策委員会においてもレビューが行われます。</p>

区分	第2期計算期間	第3期計算期間
	自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日	自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明		当ファンドの時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には、合理的に算定された価額が含まれます。当該価額の算定においては一定の前提条件を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

区分	第2期計算期間	第3期計算期間
	自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日	自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額		当ファンドにおいて投資している金融商品は原則として全て時価評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額は生じておりません。
2. 時価の算定方法		<p>有価証券</p> <p>有価証券に該当する貸借対照表上の勘定科目、及びその時価の算定方法については、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記) 1. 有価証券の評価基準及び評価方法」の通りであります。</p> <p>コールローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>上記以外のその他の科目については、帳簿価額を時価として評価しております。</p>

(関連当事者との取引に関する注記)

第2期計算期間(自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日)

該当事項はありません。

第3期計算期間(自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日)

該当事項はありません。

(その他の注記)

1. 元本の移動

区分	第2期計算期間	第3期計算期間
	自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日	自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日
期首元本額	850,377,054 円	803,237,837 円
期中追加設定元本額	59,389,043 円	62,366,507 円
期中一部解約元本額	106,528,260 円	171,719,659 円

## 2. 有価証券関係

### 売買目的有価証券の貸借対照表計上額等

第2期計算期間末 (平成22年3月29日現在)		
種類	貸借対照表計上額(円)	当計算期間の損益に含まれた評価 差額(円)
株式	813,164,900	164,837,566
合計	813,164,900	164,837,566

### 売買目的有価証券

第3期計算期間末 (平成23年3月28日現在)	
種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	44,906,636
合計	44,906,636

## 3. デリバティブ取引関係

第2期計算期間(自 平成21年3月28日 至 平成22年3月29日)

該当事項はありません。

第3期計算期間(自 平成22年3月30日 至 平成23年3月28日)

該当事項はありません。

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

(平成23年3月28日現在)

銘柄コード	銘柄名	株式数 (株)	評価単価(円)	評価金額(円)	備考
4452	花王	31,100	2,087	64,905,700	
4527	ロート製薬	40,000	870	34,800,000	
5713	住友金属鉱山	3,000	1,442	4,326,000	
6367	ダイキン工業	4,800	2,429	11,659,200	
6861	キーエンス	6,200	20,450	126,790,000	
7309	シマノ	500	3,915	1,957,500	
7453	良品計画	12,000	3,170	38,040,000	
7730	マニー	17,500	2,857	49,997,500	
7864	フジシールインターナショナル	53,300	1,611	85,866,300	
7936	アシックス	63,000	1,065	67,095,000	
8001	伊藤忠商事	8,000	862	6,896,000	
8002	丸紅	10,000	591	5,910,000	
8053	住友商事	13,000	1,183	15,379,000	
8058	三菱商事	38,500	2,311	88,973,500	
8113	ユニ・チャーム	2,100	3,040	6,384,000	
9962	ミスミグループ本社	26,800	1,960	52,528,000	
	合計	329,800		661,507,700	

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「(その他の注記)3. デリバティブ取引関係」に記載することとしています。

1) 当ファンドの中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)(以下「中間財務諸表等規則」という。)並びに同規則第38条の3及び第57条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当ファンドの中間財務諸表等に係わる中間財務諸表等規則並びに投資信託財産計算規則の改正についての対応状況は、下表の通りであります。

中間財務諸表等規則並びに投資信託財産計算規則改正		第3期中間計算期間 自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日	第4期中間計算期間 自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日
中間財務諸表等規則	平成20年8月7日付内閣府令第50号	同府令第4条第1項第1号による経過措置を適用し、改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。	改正後の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。
	平成23年3月31日付内閣府令第10号	改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。	同府令第5条第1項による経過措置を適用し、改正前の中間財務諸表等規則に基づいて作成しております。
投資信託財産計算規則	平成23年7月8日付内閣府令第33号	改正前の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。	同府令第2条による経過措置を適用し、改正前の投資信託財産計算規則に基づいて作成しております。

2) 中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づいて、第3期中間計算期間(平成22年3月30日から平成22年9月29日まで)、及び第4期中間計算期間(平成23年3月29日から平成23年9月28日まで)の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による「財務諸表等の監査証明に関する内閣府令」(昭和32年大蔵省令第12号)第3条第1項に基づく中間監査を受けております。

# 独立監査人の中間監査報告書

平成22年11月19日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

英 公一 

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

伊藤 雅人 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成22年3月30日から平成22年9月29日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、スパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成22年9月29日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成22年3月30日から平成22年9月29日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 独立監査人の中間監査報告書

平成23年11月18日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社


取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

英 以 一 

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

伊藤雅人 

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているスパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成23年3月29日から平成23年9月28日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。この中間財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国における中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。中間監査は分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続を適用して行われている。当監査法人は、中間監査の結果として中間財務諸表に対する意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、スパークス・新・国際優良日本株ファンドの平成23年9月28日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（平成23年3月29日から平成23年9月28日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

中間財務諸表  
 スパークス・新・国際優良日本株ファンド  
 (1)【中間貸借対照表】

(単位：円)

	第3期中間計算期間末 (平成22年9月29日現在)	第4期中間計算期間末 (平成23年9月28日現在)
資産の部		
流動資産		
コール・ローン	14,513,360	13,196,202
株式	667,936,300	632,506,500
未収入金	765,000	-
未収配当金	5,048,570	5,483,200
未収利息	19	18
流動資産合計	688,263,249	651,185,920
資産合計	688,263,249	651,185,920
負債の部		
流動負債		
未払解約金	1,112,696	547,492
未払受託者報酬	153,138	141,487
未払委託者報酬	6,125,522	5,659,545
その他未払費用	382,728	353,597
流動負債合計	7,774,084	6,702,121
負債合計	7,774,084	6,702,121
純資産の部		
元本等		
元本	<sup>1</sup> 731,867,972	<sup>1</sup> 690,691,149
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金( )	<sup>2</sup> 51,378,807	<sup>2</sup> 46,207,350
(分配準備積立金)	32,239,479	27,259,933
元本等合計	680,489,165	644,483,799
純資産合計	680,489,165	644,483,799
負債純資産合計	688,263,249	651,185,920

## (2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第3期中間計算期間 自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日	第4期中間計算期間 自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日
営業収益		
受取配当金	5,348,840	10,772,050
受取利息	3,406	2,427
有価証券売買等損益	72,257,126	21,399,713
その他収益	129	129
営業収益合計	66,904,751	10,625,107
営業費用		
受託者報酬	153,138	141,487
委託者報酬	6,125,522	5,659,545
その他費用	382,728	353,597
営業費用合計	6,661,388	6,154,629
営業損失( )	73,566,139	16,779,736
経常損失( )	73,566,139	16,779,736
中間純損失( )	73,566,139	16,779,736
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は一部解約に伴う中間純損失金額の分配額( )	2,370,756	1,124,602
期首剰余金又は期首欠損金( )	23,001,210	28,654,953
剰余金増加額又は欠損金減少額	-	1,760,100
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	1,760,100
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,184,634	1,408,159
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	2,333,051	-
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	851,583	1,408,159
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金( )	51,378,807	46,207,350

## (3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区分	第3期中間計算期間		第4期中間計算期間	
	自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日		自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日	
1. 有価証券の 評価基準及 び評価方法	「株式」 移動平均法に基づき、原則として時価 で評価しております。時価評価にあつて は、金融商品取引所における最終相場 (最終相場のないものについては、それ に準ずる価額)、または金融商品取引業 者等から提示される気配相場に基づいて 評価しております。		「株式」 同左	
2. 収益及び費 用の計上基 準	(1) 「受取配当金」 受取配当金は、原則として株式の配当 落ち日もしくは投資証券の権利落ち日 において、確定配当金額もしくは確定収益 分配金額、又は予想配当金額もしくは予 想収益分配金額を計上しております。 (2) 「有価証券売買等損益」 約定日基準で計上しております。		(1) 「受取配当金」 同左 (2) 「有価証券売買等損益」 同左	
3. その他	当ファンドは、原則として毎年3月27 日を計算期間の末日としておりますが、 前計算期間においては当該日が休業日で あるため、当中間計算期間を平成22年3 月30日から平成22年9月29日としており ます。		当ファンドは、原則として毎年3月27 日を計算期間の末日としておりますが、 前計算期間においては当該日が休業日で あるため、当中間計算期間を平成23年3 月29日から平成23年9月28日としており ます。	

(中間貸借対照表に関する注記)

区分	第3期中間計算期間末		第4期中間計算期間末	
	(平成22年9月29日現在)		(平成23年9月28日現在)	
1 中間計算期間末日における受 益権の総数	731,867,972口		690,691,149口	
2 投資信託財産計算規則第55条 の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損	51,378,807円		46,207,350円	
3 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9298円 9,298円		0.9331円 9,331円	

( 中間損益及び剰余金計算書に関する注記 )

第3期中間計算期間 自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日	第4期中間計算期間 自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日
該当事項はありません。	該当事項はありません。

( 金融商品に関する注記 )

金融商品の時価等に関する事項

区分	第3期中間計算期間 自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日	第4期中間計算期間 自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額		当ファンドにおいて投資している金融商品は原則として全て時価評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額は生じておりません。
2. 時価の算定方法		<p>有価証券</p> <p>有価証券に該当する貸借対照表上の勘定科目、及びその時価の算定方法については、「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)1.有価証券の評価基準及び評価方法」の通りであります。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>上記 以外のその他の科目については、帳簿価額を時価として評価しております。</p>

(その他の注記)

1. 元本の移動

区分	第3期中間計算期間	第4期中間計算期間
	自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日	自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日
期首元本額	803,237,837円	693,884,685円
期中追加設定元本額	18,497,155円	38,287,573円
期中一部解約元本額	89,867,020円	41,481,109円

2. デリバティブ取引関係

第3期中間計算期間(自 平成22年3月30日 至 平成22年9月29日)

該当事項はありません。

第4期中間計算期間(自 平成23年3月29日 至 平成23年9月28日)

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

### 【純資産額計算書】

(2011年10月31日現在)

資産総額	627,035,984 円
負債総額	1,084,925 円
純資産総額( - )	625,951,059 円
発行済口数	691,419,774 口
1口当たり純資産額( / )	0.9053 円

#### 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換について

該当事項はありません。

(2) 受益者等に対する特典

該当するものではありません。

(3) 譲渡制限の内容

譲渡制限は設けておりません。

(4) 受益証券の再発行

委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(5) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。前項の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定に従い、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託者は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(6) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(7) 受益権の再分割

受託者と協議のうえ、社振法に定めるところに従い、一定日現在の受益権を均等に再分割で

きるものとしします。

#### (8) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者としします。）に支払います。

#### (9) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等に従って取り扱われます。

### 第三部【委託会社等の情報】

#### 第1【委託会社等の概況】

##### 1【委託会社等の概況】

###### (1) 資本金の額（平成23年10月末日現在）

資本金 25億円

発行可能株式総数 50,000株

発行済株式総数 50,000株

最近5年間における資本金の額の増減

平成18年10月 資本金5,000万円から25億円へ増資

###### (2) 委託会社の機構（平成23年4月末日現在）

###### 経営体制

当社の意思決定機関としてある取締役会は10名以内の取締役で構成されます。取締役の選任は株主総会において、発行済株式総数の3分の1以上にあたる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとしします。

取締役の任期は、就任後1年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結のときまでとし、補欠または増員により選任された取締役の任期は、他の取締役の任期の満了すべき時までとしします。

取締役会は、その決議をもって、取締役の中から取締役社長1名を選定し、また必要に応じて取締役会長1名、取締役副社長、専務取締役、常務取締役各若干名を選任することができます。

取締役会の決議をもって代表取締役を決定します。

代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議に従い、業務を執行します。

取締役会は、法令または定款に定めてある事項の他、当社の経営上重要な事項を決定します。

## 運用体制

1) 当ファンドでは、平成23年4月末日現在、運用調査本部が運用・調査を担当しており、下記の意思決定プロセスに基づき、運用を行っております。

### 2) 意思決定プロセス

イ．運用指図の意思決定は「投資信託に係る運用管理規程」に従い、「第一投資政策委員会」において、投資環境の分析、市場動向見通し策定、期待リターンとリスクの予測などを実施、「運用計画書」において、運用戦略を審議の上、行われます。

ロ．ファンドマネージャーは「第一投資政策委員会」において承認された運用戦略に基づき、「投資信託に係る運用管理規程」に従い、実際の投資活動を行います。第一投資政策委員会は、運用調査本部、リスク管理部門、リーガル・コンプライアンス部門の責任者等をもって構成し、原則として月2回開催する他、必要に応じ臨時開催します。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

金融商品取引法に定める金融商品取引業者として営業を行っております。

(関東財務局長(金商)第346号)

### (1)投資顧問業

平成18年8月投資一任契約に係る業務の認可取得。平成元年に創業したスパークス投資顧問株式会社(平成12年3月社名変更後の商号:スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社)の業務を平成18年10月1日に承継し、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として営業を行っております。

### (2)投資信託委託業

平成18年8月投資信託委託業の認可取得。平成12年3月に証券投資信託委託業の認可を取得したスパークス・アセット・マネジメント投信株式会社の事業を平成18年10月1日に承継し、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として営業を行っております。

委託者の運用する投資信託は平成23年10月31日現在次の通りです。

(ただし、親投資信託を除きます。)

種類	本数	純資産総額(億円)
追加型株式投資信託	22	643
追加型証券投資信託	4	183
合計	26	826

### (3)第一種金融商品取引業

平成22年7月1日をもってスパークス証券株式会社を吸収合併し、第一種金融商品取引業を開始しました。

### 3【委託会社等の経理状況】

#### 1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、前事業年度は改正前の「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しており、当事業年度は改正後の財務諸表等規則並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

#### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）及び当事業年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月30日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士  
業務執行社員

大野



当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているスパークス・アセット・マネジメント株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第4期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 追記情報

1. 重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、会社が、スパークス証券株式会社を吸収合併する旨の記載がある。
2. 重要な後発事象に関する注記に記載されているとおり、会社が、保有する投資有価証券をスパークス・グループ株式会社へ譲渡する旨の記載がある。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 独立監査人の監査報告書

平成23年6月20日

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 公認会計士  
業務執行社員

大畑 光

指定社員 公認会計士  
業務執行社員

梅木 典子

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているスパークス・アセット・マネジメント株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第5期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書及び株主資本等変動計算書について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、スパークス・アセット・マネジメント株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## (1) 貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年 3月31日)		当事業年度 (平成23年 3月31日)	
<b>(資産の部)</b>				
流動資産				
現金・預金		2,383		2,121
預託金		-		500
未収委託者報酬		241		246
未収投資顧問料		291		320
前払費用		32		28
未収収益		0		67
未収入金		4		2
その他		0		6
流動資産合計		2,953		3,294
固定資産				
有形固定資産				
建物	1	6	2	66
工具、器具及び備品	1	15	2	19
有形固定資産合計		21		86
無形固定資産				
ソフトウェア		52		24
無形固定資産合計		52		24
投資その他の資産				
投資有価証券		1,608		-
差入保証金		9		7
投資その他の資産合計		1,618		7
固定資産合計		1,692		117
資産合計		4,645		3,411
<b>(負債の部)</b>				
流動負債				
預り金		9		53
未払手数料		63		64
その他未払金	2	213	3	251
未払法人税等		7		5
未払消費税等		10		-
その他		0		-
流動負債合計		305		374
固定負債				
繰延税金負債		52		-
固定負債合計		52		-
特別法上の準備金				
金融商品取引責任準備金		-	1	0
特別法上の準備金合計		-		0
負債合計		357		375
<b>(純資産の部)</b>				
株主資本				
資本金		2,500		2,500
資本剰余金				
資本準備金		1,453		104
その他資本剰余金		-		499

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成22年 3月31日)	当事業年度 (平成23年 3月31日)
資本剰余金合計	1,453	603
利益剰余金		
利益準備金	-	145
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	490	212
利益剰余金合計	490	67
株主資本合計	4,443	3,036
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	155	-
評価・換算差額等合計	155	-
純資産合計	4,287	3,036
負債純資産合計	4,645	3,411

## (2) 損益計算書

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
営業収益		
委託者報酬	1,663	1,179
投資顧問料収入	1,252	1,114
受入手数料	-	188
その他営業収益	4	27
営業収益計	2,920	2,510
営業費用		
支払手数料	715	358
広告宣伝費	5	7
調査費	227	206
委託計算費	80	71
営業雑経費		
通信費	6	13
印刷費	0	7
協会費	5	6
諸会費	1	3
その他	2	2
営業費用計	1,045	676
一般管理費		
給料	707	884
役員報酬	42	75
給料・手当	664	722
賞与	0	87
旅費交通費	34	55
事務委託費	1 564	1 461
不動産賃借料	258	231
租税公課	18	14
固定資産減価償却費	59	70
交際費	2	5
諸経費	98	172
一般管理費計	1,744	1,896
営業利益又は営業損失( )	130	62
営業外収益		
受取利息	7	7
為替差益	0	-
雑収入	5	4
営業外収益計	13	11
営業外費用		
為替差損	-	7
雑損失	1	0
営業外費用計	1	8
経常利益又は経常損失( )	142	59
特別利益		
投資有価証券売却益	-	3 152
前期損益修正益	2 6	-
その他	0	-

(単位：百万円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
特別利益合計		6		152
特別損失				
固定資産売却損	3	1		-
固定資産除却損	3	2	2	6
投資有価証券売却損		-	3	244
経営構造改革関連損失		0		53
金融商品取引責任準備金繰入額		-		0
特別損失合計		4		303
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )		144		210
法人税、住民税及び事業税		2		2
法人税等合計		2		2
当期純利益又は当期純損失( )		142		212

## (3) 株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,500	2,500
当期末残高	2,500	2,500
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	1,453	1,453
事業年度中の変動額		
準備金から剰余金への振替	-	1,453
資本準備金の積立	-	104
事業年度中の変動額合計	-	1,348
当期末残高	1,453	104
その他資本剰余金		
事業年度中の変動額		
剰余金の配当	-	1,047
合併による増加	-	198
準備金から剰余金への振替	-	1,453
資本準備金の積立	-	104
事業年度中の変動額合計	-	499
当期末残高	-	499
資本剰余金合計		
前期末残高	1,453	1,453
事業年度中の変動額		
剰余金の配当	-	1,047
合併による増加	-	198
事業年度中の変動額合計	-	849
当期末残高	1,453	603
利益剰余金		
利益準備金		
事業年度中の変動額		
利益準備金の積立	-	145
事業年度中の変動額合計	-	145
当期末残高	-	145
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	347	490
事業年度中の変動額		
剰余金の配当	-	1,452
合併による増加	-	1,107
利益準備金の積立	-	145
当期純利益又は当期純損失( )	142	212
事業年度中の変動額合計	142	702
当期末残高	490	212
利益剰余金合計		
前期末残高	347	490
事業年度中の変動額		

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
剰余金の配当	-	1,452
合併による増加	-	1,107
当期純利益又は当期純損失( )	142	212
事業年度中の変動額合計	142	557
当期末残高	490	67
株主資本合計		
前期末残高	4,301	4,443
事業年度中の変動額		
剰余金の配当	-	2,500
合併による増加	-	1,305
当期純利益又は当期純損失( )	142	212
事業年度中の変動額合計	142	1,406
当期末残高	4,443	3,036
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	116	155
事業年度中の変動額		
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額)	38	155
事業年度中の変動額合計	38	155
当期末残高	155	-
評価・換算差額等合計		
前期末残高	116	155
事業年度中の変動額		
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額)	38	155
事業年度中の変動額合計	38	155
当期末残高	155	-
純資産合計		
前期末残高	4,184	4,287
事業年度中の変動額		
剰余金の配当	-	2,500
合併による増加	-	1,305
当期純利益又は当期純損失( )	142	212
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純 額)	38	155
事業年度中の変動額合計	103	1,251
当期末残高	4,287	3,036

## 重要な会計方針

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>その他有価証券 時価のあるもの</p> <p>期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定しております。）</p>	<p>その他有価証券 時価のあるもの 同左</p>
2. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定率法によっております。</p> <p>ただし、平成10年 4月 1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は、以下の通りであります。</p> <p>建物 8年～18年 工具、器具及び備品 3年～20年</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>ソフトウェア（自社利用）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定率法によっております。</p> <p>ただし、平成10年 4月 1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。</p> <p>なお、主な耐用年数は、以下の通りであります。</p> <p>建物 2年～18年 工具、器具及び備品 2年～20年</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p>
3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	<p>外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p>	<p>同左</p>
4. 引当金の計上基準	<p>賞与引当金</p> <p>従業員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。</p>	
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>消費税等の会計処理</p> <p>消費税等の会計処理は税抜方式によっております。</p>	<p>消費税等の会計処理 同左</p>

会計処理方法の変更

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しております。これによる損益への影響はありません。</p> <p>(企業結合に関する会計基準等の適用)</p> <p>当事業年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。</p>

注記事項

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年 3月31日)	当事業年度 (平成23年 3月31日)								
<p>1. 有形固定資産の減価償却累計額</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">88百万円</td> </tr> </table> <p>2. 関係会社に対する資産及び負債 その他未払金 121百万円</p>	建物	1百万円	工具、器具及び備品	88百万円	<p>1. 特別法上の準備金の計上を規定した法令の条項は、次のとおりであります。 金融商品取引責任準備金...金融商品取引法第46条の5</p> <p>2. 有形固定資産の減価償却累計額</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">47百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">144百万円</td> </tr> </table> <p>3. 関係会社に対する資産及び負債 その他未払金 93百万円</p>	建物	47百万円	工具、器具及び備品	144百万円
建物	1百万円								
工具、器具及び備品	88百万円								
建物	47百万円								
工具、器具及び備品	144百万円								

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)												
<p>1. 関係会社に対する取引の主なもの 事務委託費 433百万円</p> <p>2. 前期損益修正益の主な内容は、前事業年度末において見積計上されていた経営構造改革関連損失引当金の戻入であります。</p> <p>3. 固定資産売却損及び固定資産除却損の内訳</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>固定資産売却損</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td>固定資産除却損</td> <td></td> </tr> <tr> <td>    工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> </table>	固定資産売却損		工具、器具及び備品	1百万円	固定資産除却損		工具、器具及び備品	2百万円	<p>1. 関係会社に対する取引の主なもの 事務委託費 393百万円</p> <p>2. 固定資産除却損の内訳</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>建物</td> <td style="text-align: right;">5百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> </table> <p>3. 投資有価証券売却益145百万円及び投資有価証券売却損244百万円は、親会社との取引により生じたものであります。</p>	建物	5百万円	工具、器具及び備品	0百万円
固定資産売却損													
工具、器具及び備品	1百万円												
固定資産除却損													
工具、器具及び備品	2百万円												
建物	5百万円												
工具、器具及び備品	0百万円												

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	50,000	-	-	50,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	50,000	-	-	50,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
臨時株主総会	普通株式	2,500	50,000	平成22年12月16日	平成22年12月17日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

該当事項はありません。

(リース取引関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については安全性の高い金融商品や預金等の他、ファンド組成等のためのシードマネーに限定し、資金調達については親会社による株式引受によっております。

デリバティブ取引は、後述するリスクを回避する目的以外には利用せず、投機的な取引は行わない方針であります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収投資顧問料及び未収委託者報酬は、顧客の信用リスクに晒されております。また外貨建ての営業債権・営業債務は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、シードマネーとしてのファンド等時価のある有価証券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権である未収投資顧問料及び未収委託者報酬に係る信用リスクは、当社グループが管理あるいは運用するファンド、一任運用財産自体がリスクの高い取引を限定的にしか行っていないポートフォリオ運用であることから、極めて限定的であると判断しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、「市場リスク管理規程」に基づき、外貨建て営業債権債務のネットポジションを毎月把握しており、さらに必要と判断した場合には、先物為替予約等を利用してヘッジする予定にしております。

投資有価証券については、シードマネーとしての投資信託等時価のある有価証券であり、「自己資金運用規程」に基づき、毎月時価を把握し、取締役会に報告しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,383	2,383	-
(2) 未収委託者報酬	241	241	-
(3) 未収投資顧問料	291	291	-
(4) 投資有価証券	1,608	1,608	-
資産計	4,524	4,524	-
(1) 未払手数料	63	63	-
(2) その他未払金	213	213	-
負債計	276	276	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

### 資 産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬及び(3) 未収投資顧問料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

シードマネーとしての投資信託等は公表される基準価額または合理的に算定された価格によっております。

### 負 債

(1) 未払手数料及び(2) その他未払金

これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	2,383	-	-	-
未収委託者報酬	241	-	-	-
未収投資顧問料	291	-	-	-
合計	2,916	-	-	-

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については安全性の高い金融商品や預金等の他、ファンド組成等のためのシードマネーに限定し、資金調達については親会社による株式引受によっております。

デリバティブ取引は、後述するリスクを回避する目的以外には利用せず、投機的な取引は行わない方針であります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である未収投資顧問料及び未収委託者報酬は、顧客の信用リスクに晒されております。また外貨建ての営業債権・営業債務は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、シードマネーとしてのファンド等時価のある有価証券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権である未収投資顧問料及び未収委託者報酬に係る信用リスクは、当社グループが管理あるいは運用するファンド、一任運用財産自体がリスクの高い取引を限定的にしか行っていないポートフォリオ運用であることから、極めて限定的であると判断しております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、「市場リスク管理規程」に基づき、外貨建て営業債権債務のネットポジションを毎月把握しており、さらに必要と判断した場合には、先物為替予約等を利用してヘッジする予定にしております。

投資有価証券については、シードマネーとしての投資信託等時価のある有価証券であり、「自己資金運用規程」に基づき、毎月時価を把握し、取締役会に報告しております。

### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	2,121	2,121	-
(2) 預託金	500	500	-
(3) 未収委託者報酬	246	246	-
(4) 未収投資顧問料	320	320	-
(5) 未収収益	67	67	-
資産計	3,255	3,255	-
(1) 預り金	53	53	-
(2) 未払手数料	64	64	-
(3) その他未払金	251	251	-
負債計	369	369	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

### 資 産

(1) 現金・預金、(2) 預託金、(3) 未収委託者報酬、(4) 未収投資顧問料及び(5) 未収収益  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### 負 債

(1) 預り金、(2) 未払手数料及び(3) その他未払金  
これらは短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	2,121	-	-	-
預託金	500	-	-	-
未収委託者報酬	246	-	-	-
未収投資顧問料	320	-	-	-
未収収益	67	-	-	-
合計	3,255	-	-	-

(有価証券関係)

前事業年度

1. その他有価証券(平成22年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるも の	その他	412	283	128
	小計	412	283	128
貸借対照表計上額が 取得原価を超えない もの	その他	1,195	1,427	232
	小計	1,195	1,427	232
合計		1,608	1,711	103

2. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)  
該当事項はありません。

当事業年度

1. 当事業年度中に売却したその他有価証券(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
その他	1,619	152	244

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <p>繰延税金資産</p> <p>繰越欠損金 27</p> <p>その他有価証券評価差額金 94</p> <p>その他の税務調整項目 10</p> <hr/> <p>繰延税金資産小計 132</p> <p>評価性引当額 132</p> <hr/> <p>繰延税金資産合計 -</p> <p>繰延税金負債</p> <p>その他有価証券評価差額金 52</p> <hr/> <p>繰延税金負債合計 52</p> <hr/> <p>繰延税金負債の純額 52</p>	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生的主要原因別の内訳</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <p>繰延税金資産</p> <p>繰越欠損金 144</p> <p>未払賞与否認 32</p> <p>未確定債務否認 8</p> <p>金融商品取引責任準備金 0</p> <p>その他の税務調整項目 1</p> <hr/> <p>繰延税金資産小計 186</p> <p>評価性引当額 186</p> <hr/> <p>繰延税金資産の純額 -</p>
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>税引前当期純損失が計上されているため、記載しておりません。</p>

( 持分法損益等 )

前事業年度 ( 自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日 )

該当事項はありません。

当事業年度 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日 )

該当事項はありません。

( 企業結合等関係 )

前事業年度 ( 自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日 )

該当事項はありません。

当事業年度 ( 自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日 )

( 共通支配下の取引 )

当社は、平成22年 7 月 1 日をもって、当社親会社スパークス・グループ株式会社の100%子会社であるスパークス証券株式会社と合併いたしました。

1. 取引の概要

( 1 ) 結合当事企業の名称及びその事業内容等

( 平成22年3月31日現在 )

	存続会社	消滅会社
商号	スパークス・アセット・マネジメント株式会社 ( 当社 )	スパークス証券株式会社
事業内容	投資運用業及び投資助言・代理業並びに第二種金融商品取引業	第一種金融商品取引業、投資助言・代理業及び情報提供コンサルティング業等
設立年月日	平成18年4月3日	平成10年5月 7 日
本店所在地	東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー	東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー
代表者	代表取締役社長 谷口 正樹	代表取締役社長 深見 正敏
資本金	2,500百万円	165百万円
発行済株式総数	50,000 株	3,300 株
営業収益	2,920百万円	376百万円
当期純利益	142百万円	20百万円
純資産	4,287百万円	1,277百万円
総資産	4,645百万円	2,092百万円
従業員数	95人	9人
事業年度の末日	3 月31日	3 月31日
大株主及び持株比率	スパークス・グループ株式会社 ( 100% )	スパークス・グループ株式会社 ( 100% )

(2) 企業結合日

平成22年7月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、スパークス証券株式会社を消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

(5) その他取引の概要

合併の目的

投資運用業を主要事業としている当社と、当社及びグループ各社の運用する運用商品の販売等を主要事業としているスパークス証券株式会社の経営資源を集約することによって経営の効率化を図るとともに、商品の企画、その運用から販売、顧客サービスまでの一貫した体制を強化することによって、市場変化及び顧客ニーズへの迅速な対応を図り、運用事業を強化し成長の加速を図るため。

合併比率並びに合併交付金

当社及びスパークス証券株式会社は、いずれもスパークス・グループ株式会社の100%子会社であるため、本合併による新株式の発行及び資本金の増加並びに合併交付金の支払はありません。

消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行いました。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

前事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(追加情報)

当事業年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連情報】

当事業年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1 サービスごとの情報

投信投資顧問業及び関連サービスに関する外部顧客への営業収益が、損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位:百万円)

日本	バミューダ	その他	合計
1,633	451	425	2,510

(注) 営業収益の地域区分は、契約相手方の所在地(ファンドの場合は組成地)を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

### 3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	営業収益	関連するセグメント名
スパークス・ファンド・シンフォニア	437	投信投資顧問業
SPARX Overseas Ltd.	375	投信投資顧問業

#### 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

#### 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

#### 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

#### 【関連当事者情報】

前事業年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

##### 1. 関連当事者との取引

###### (1) 財務諸表提出会社の親会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	スパークス・グループ株式会社	東京都品川区	12,404	純粋持株会社	(被所有)直接100	グループ管理会社	業務委託	433	未払金	121

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 市場価格を勘案し一般的取引条件と同様に決定しております。

(注2) 上記の表における期末残高には消費税等を含めており、取引金額には消費税等を含めておりません。

###### (2) 財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千米ドル)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	SPARX Overseas Ltd.	パミューダ諸島	1,562	資産運用業	なし	海外籍ファンドの運用・管理業	運用報酬等の受取	375	未収投資顧問料等	87

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 市場価格を勘案し一般的取引条件と同様に決定しております。

(注2) 上記の表における期末残高及び取引金額に消費税等を含めておりません。

## 2 親会社に関する注記

### 親会社情報

スパークス・グループ株式会社（ジャスダック証券取引所に上場）

当事業年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

### 1 関連当事者との取引

#### （1）財務諸表提出会社の親会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	スパークス・グループ株式会社	東京都品川区	12,435	純粋持株会社	(被所有)直接100	グループ管理会社	業務委託 (注1)	393	未払金	92
							投資有価証券の売却 (注1)	1,597	-	-
							固定資産の購入 (注2)	84	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）市場価格を勘案し一般的な取引条件と同様に決定しております。

（注2）固定資産の購入金額は、スパークス・グループ株式会社の帳簿価額を基礎に決定しております。

（注3）上記の表における期末残高には消費税等を含めており、取引金額には消費税等を含めておりません。

#### （2）財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千米ドル)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	SPARX Overseas Ltd.	バミューダ諸島	1,562	資産運用業	なし	海外籍ファンドの運用・管理業	運用報酬等の受取	375	未収投資顧問料	89
						販売会社	手数料の受取	72	未収収益	24
	Fairchild Advisors Limited	ケイマン諸島	0	資産運用業	なし	販売会社	手数料の受取	50	未収収益	42

取引条件及び取引条件の決定方針等

（注1）市場価格を勘案し一般的な取引条件と同様に決定しております。

（注2）上記の表における期末残高及び取引金額に消費税等を含めておりません。

## 2 親会社に関する注記

### 親会社情報

スパークス・グループ株式会社（株式会社大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）に上場）

( 1株当たり情報 )

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1株当たり純資産額 85,758円46銭	1株当たり純資産額 60,735円28銭
1株当たり当期純利益金額 2,844円92銭	1株当たり当期純損失金額 ( ) 4,248円09銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度末 (平成22年 3月31日)	当事業年度末 (平成23年 3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	4,287	3,036
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る期末純資産額 (百万円)	4,287	3,036
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 (株)	50,000	50,000

(注) 2. 1株当たり当期純利益又は当期純損失 ( ) の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
当期純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	142	212
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	142	212
普通株式の期中平均株式数 (株)	50,000	50,000

(重要な後発事象)

前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)			当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)																																													
<p>(共通支配下の取引)            当社は、平成 22 年 4 月 28 日開催の取締役会において、当社親会社スパークス・グループ株式会社の 100%子会社であるスパークス証券株式会社と、平成 22 年 7 月 1 日(予定)を合併期日として合併することを決議いたしました。</p> <p>1. 結合当事企業の名称及びその事業内容等            (平成 22 年 3 月 31 日現在)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">存続会社</th> <th style="width: 45%;">消滅会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)商号</td> <td>スパークス・アセット・マネジメント株式会社(当社)</td> <td>スパークス証券株式会社</td> </tr> <tr> <td>(2)事業内容</td> <td>投資運用業及び投資助言・代理業並びに第二種金融商品取引業</td> <td>第一種金融商品取引業、投資助言・代理業及び情報提供コンサルティング業等</td> </tr> <tr> <td>(3)設立年月日</td> <td>平成 18 年 4 月 3 日</td> <td>平成 10 年 5 月 7 日</td> </tr> <tr> <td>(4)本店所在地</td> <td>東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー</td> <td>東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー</td> </tr> <tr> <td>(5)代表者</td> <td>代表取締役社長 谷口 正樹</td> <td>代表取締役社長 深見 正敏</td> </tr> <tr> <td>(6)資本金</td> <td style="text-align: center;">2,500 百万円</td> <td style="text-align: center;">165 百万円</td> </tr> <tr> <td>(7)発行済株式総数</td> <td style="text-align: center;">50,000 株</td> <td style="text-align: center;">3,300 株</td> </tr> <tr> <td>(8)営業収益</td> <td style="text-align: center;">2,920 百万円</td> <td style="text-align: center;">376 百万円</td> </tr> <tr> <td>(9)当期純利益</td> <td style="text-align: center;">142 百万円</td> <td style="text-align: center;">20 百万円</td> </tr> <tr> <td>(10)純資産</td> <td style="text-align: center;">4,287 百万円</td> <td style="text-align: center;">1,277 百万円</td> </tr> <tr> <td>(11)総資産</td> <td style="text-align: center;">4,645 百万円</td> <td style="text-align: center;">2,092 百万円</td> </tr> <tr> <td>(12)従業員</td> <td style="text-align: center;">95 人</td> <td style="text-align: center;">9 人</td> </tr> <tr> <td>(13)事業年度の末日</td> <td style="text-align: center;">3 月 31 日</td> <td style="text-align: center;">3 月 31 日</td> </tr> <tr> <td>(14)大株主及び持株比率</td> <td>スパークス・グループ株式会社 (100%)</td> <td>スパークス・グループ株式会社 当社(100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 企業結合の法的形式            当社を存続会社、スパークス証券株式会社を消滅会社とする吸収合併</p> <p>3. 結合後企業の名称            スパークス・アセット・マネジメント株式会社</p>					存続会社	消滅会社	(1)商号	スパークス・アセット・マネジメント株式会社(当社)	スパークス証券株式会社	(2)事業内容	投資運用業及び投資助言・代理業並びに第二種金融商品取引業	第一種金融商品取引業、投資助言・代理業及び情報提供コンサルティング業等	(3)設立年月日	平成 18 年 4 月 3 日	平成 10 年 5 月 7 日	(4)本店所在地	東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー	東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー	(5)代表者	代表取締役社長 谷口 正樹	代表取締役社長 深見 正敏	(6)資本金	2,500 百万円	165 百万円	(7)発行済株式総数	50,000 株	3,300 株	(8)営業収益	2,920 百万円	376 百万円	(9)当期純利益	142 百万円	20 百万円	(10)純資産	4,287 百万円	1,277 百万円	(11)総資産	4,645 百万円	2,092 百万円	(12)従業員	95 人	9 人	(13)事業年度の末日	3 月 31 日	3 月 31 日	(14)大株主及び持株比率	スパークス・グループ株式会社 (100%)	スパークス・グループ株式会社 当社(100%)
	存続会社	消滅会社																																														
(1)商号	スパークス・アセット・マネジメント株式会社(当社)	スパークス証券株式会社																																														
(2)事業内容	投資運用業及び投資助言・代理業並びに第二種金融商品取引業	第一種金融商品取引業、投資助言・代理業及び情報提供コンサルティング業等																																														
(3)設立年月日	平成 18 年 4 月 3 日	平成 10 年 5 月 7 日																																														
(4)本店所在地	東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー	東京都品川区大崎 1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー																																														
(5)代表者	代表取締役社長 谷口 正樹	代表取締役社長 深見 正敏																																														
(6)資本金	2,500 百万円	165 百万円																																														
(7)発行済株式総数	50,000 株	3,300 株																																														
(8)営業収益	2,920 百万円	376 百万円																																														
(9)当期純利益	142 百万円	20 百万円																																														
(10)純資産	4,287 百万円	1,277 百万円																																														
(11)総資産	4,645 百万円	2,092 百万円																																														
(12)従業員	95 人	9 人																																														
(13)事業年度の末日	3 月 31 日	3 月 31 日																																														
(14)大株主及び持株比率	スパークス・グループ株式会社 (100%)	スパークス・グループ株式会社 当社(100%)																																														

<p>4. 取引の目的を含む取引の概要</p> <p>(1) 合併の目的  投資運用業を主要事業としている当社と、当社及びグループ各社の運用する運用商品の販売等を主要事業としているスパークス証券株式会社の経営資源を集約することによって経営の効率化を図るとともに、商品の企画、その運用から販売、顧客サービスまでの一貫した体制を強化することによって、市場変化及び顧客ニーズへの迅速な対応を図り、運用事業を強化し成長の加速を図るため。</p> <p>(2) 合併期日（効力発生日）  平成 22 年 7 月 1 日（予定）  なお、当該合併は、スパークス証券株式会社が行っている業務の全てを円滑に引継ぐために必要となる、当社における第一種金融商品取引業の登録等の要件を満たすことが条件となります。</p> <p>(3) 合併比率並びに合併交付金  当社及びスパークス証券株式会社は、いずれもスパークス・グループ株式会社の 100% 子会社であるため、本合併による新株式の発行及び資本金の増加並びに合併交付金の支払はありません。</p> <p>(4) 消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い  該当事項はありません。</p> <p>5. 実施する会計処理の概要  「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 改正平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 最終改正平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として会計処理を行う予定であります。</p>	
--	--

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)</p>
<p>(重要な資産の譲渡)</p> <p>当社は、平成 22 年 4 月 28 日開催の取締役会において、当社が保有する投資有価証券を譲渡することを決議いたしました。</p> <p>1. 譲渡の理由</p> <p>後発事象（共通支配下の取引）に記載のとおり、スパークス証券株式会社との合併に備え、市場リスクを有する資産を、合併前に譲渡することにいたしました。</p> <p>2. 譲渡する相手先の名称</p> <p>スパークス・グループ株式会社</p> <p>3. 譲渡資産の種類、譲渡前の用途</p> <p>譲渡資産の種類      投資有価証券 譲渡前の用途        シードマネー</p> <p>4. 譲渡の時期</p> <p>具体的な売却時期は銘柄ごとに異なりますが、概ね平成 22 年 6 月末までには売却を完了する予定であります。</p> <p>5. 譲渡価額</p> <p>1,608 百万円（予定）</p> <p>6. 当該事象の損益に与える影響</p> <p>当該有価証券の譲渡に伴う売却損 103 百万円（予定）を、平成 23 年 3 月期において特別損失として計上する予定であります。</p>	

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託者は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の実行の条件と異なる条件であつて取引の公正を害するおそれのある条件で、委託者の親法人等（委託者の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託者が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託者の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託者の親法人等又は子法人等が関与する行為であつて、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定めるもの。

#### 5【その他】

該当事項はありません。

追加型株式投資信託  
スパークス・新・国際優良日本株ファンド  
運用の基本方針

約款第 17 条に基づき、委託者の定める運用の基本方針は次のものとします。

1. 基本方針

この投資信託は、投資信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行います。

2. 運用方法

(1) 投資対象

主としてわが国の株式を主要投資対象とします。

(2) 投資態度

主として、わが国の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待出来る日本企業に投資いたします。

ベンチマークは設けず 20 銘柄程度に厳選投資を行い、原則として短期的な売買は行わず長期保有することを基本とします。

株式の組入比率は信託財産総額の 50% 超を基本とし、原則として高位を維持します。また、株式以外の資産への投資は、原則として、信託財産総額の 50% 以下とします。

市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準になったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

(3) 投資制限

株式への投資割合には制限を設けません。

外貨建資産への投資は行いません。

新株予約権証券への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の 20% 以内とします。

有価証券先物取引等は約款第 21 条の範囲で行います。

スワップ取引は約款第 22 条の範囲で行います。

同一銘柄の転換社債ならびに新株予約権付社債のうち会社法第 236 条第 1 項第 3 号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（以下会社法施行前の旧商法第 341 条ノ 3 第 1 項第 7 号および第 8 号の定めがある新株予約権社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。）への投資割合は、取得時において信託財産の純資産総額の 10% 以内とします。

投資信託証券への投資割合は信託財産の純資産総額の 5% 以内とします。

3. 収益分配方針

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。

(1) 分配対象額の範囲

経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

(2) 分配対象収益についての分配方針

分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、収益分配を行わないこともあります。

(3) 留保益の運用方針

留保益の運用については特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

追加型株式投資信託  
スパークス・新・国際優良日本株ファンド  
約款

(信託の種類、委託者および受託者)

第1条 この信託は、証券投資信託であり、スパークス・アセット・マネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者とします。

この信託は、信託法(平成18年法律第108号)(以下「信託法」といいます。)の適用を受けます。

受託者は、信託法第28条第1号に基づく信託事務の委託として、信託事務の処理の一部について、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律第1条第1項の規定による信託業務の兼営の認可を受けた一の金融機関(受託者の利害関係人(金融機関の信託業務の兼営等に関する法律にて準用する信託業法第29条第2項第1号に規定する利害関係人をいいます。以下この条において同じ。))を含みます。)と信託契約を締結し、これを委託することができます。

前項における利害関係人に対する業務の委託については、受益者の保護に支障を生じることがない場合に行うものとします。

(信託の目的、金額および限度額)

第2条 委託者は、金1,000億円を上限として受益者のために利殖の目的をもって信託し、受託者はこれを引受けます。

委託者は、受託者と合意のうえ、金5,000億円を限度として信託金を追加することができるものとします。

委託者は、受託者と合意のうえ、前項の限度額を変更することができます。

(信託期間)

第3条 この信託の期間は、信託契約締結日から平成30年3月27日までとします。

(受益権の取得申込みの勧誘の種類)

第4条 この信託にかかる受益権の取得申込みの勧誘は、金融商品取引法第2条第3項第1号に掲げる場合に該当する勧誘のうち、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第8項で定める公募により行われます。

(当初の受益者)

第5条 この信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託者の指定する受益権取得申込者とし、第6条の規定により分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

(受益権の分割および再分割)

第6条 委託者は、第2条第1項による受益権については、1,000億口を上限として、追加信託によって生じた受益権については、これを追加信託のつど第7条第1項の追加口数に、それぞれ均等に分割します。

委託者は、受託者と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律(以下「社振法」といいます。)に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(追加信託の価額および口数、基準価額の計算方法)

第7条 追加信託金は、追加信託を行う日の前営業日の基準価額に、当該追加信託に係る受益権の口数を乗じた額とします。

この約款において基準価額とは、信託財産に属する資産(受入担保金代用有価証券を除きます。)を法令および社団法人投資信託協会規則に従って時価評価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額(以下「純資産総額」といいます。)を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

(信託日時の異なる受益権の内容)

第8条 この信託の受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

(受益権の帰属と受益証券の不発行)

第9条 この信託の全ての受益権は、社振法の規定の適用を受けており、受益権の帰属は、委託者があらかじめこの信託の受益権を取り扱うことについて同意した一の振替機関(社振法第2条に規定する「振替機

関」をいい、以下「振替機関」といいます。)および当該振替機関の下位の口座管理機関(社振法第2条に規定する「口座管理機関」をいい、振替機関を含め、以下「振替機関等」といいます。)の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。(以下、振替口座簿に記載または記録されることにより定まる受益権を「振替受益権」といいます。)

委託者は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、振替受益権を表示する受益証券を発行しません。なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

委託者は、第6条の規定により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託者から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。

(受益権の設定に係る受託者の通知)

第10条 受託者は、信託契約締結日に生じた受益権については信託契約締結時に、追加信託により生じた受益権については追加信託の都度、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

(受益権の申込単位、価額および手数料)

第11条 委託者の指定する販売会社(金融商品取引法第28条第1項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および金融商品取引法第2条第11項に規定する登録金融機関をいいます。委託者がこの要件を満たす場合は委託者も含まれます。以下同じ。)は、第6条第1項の規定により分割される受益権の取得申込者に対し、それぞれ委託者の承認を得て定める単位をもって取得申込に応じることができるものとします。ただし、委託者の指定する販売会社と別に定める自動けいぞく投資契約(以下「別に定める契約」といいます。)を結んだ取得申込者に限り、1口の整数倍をもって取得の申込に応じることができるものとします。なお、この約款において「自動けいぞく投資契約」とは、この信託について受益権取得申込者と委託者の指定する販売会社が締結する「自動けいぞく投資契約」と別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含むものとします。この場合、「自動けいぞく投資契約」は当該別の名称に読み替えるものとします。

前項の取得申込者は委託者の指定する販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたこの信託の受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、委託者の指定する販売会社は、当該取得申込の代金(第3項の受益権の価額に当該取得申込の口数を乗じて得た額をいいます。)の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。

第1項の受益権の価額は、取得申込日の基準価額に、第4項に規定する手数料および当該手数料にかかる消費税および地方消費税(以下「消費税等」といいます。)に相当する金額を加算した価額とします。ただし、この信託契約締結日前の取得申込みにかかる受益権の価額は1口につき1円に、第4項に規定する手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を加算した額とします。

前項の手数料の額は、委託者の指定する販売会社がそれぞれ独自に定めるものとします。

第3項の規定にかかわらず、受益者が別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する場合の受益権の価額は、原則として、第35条に規定する各計算期間終了日の基準価額とします。

前各項の規定にかかわらず、委託者は、金融商品取引所(金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場を「取引所」といい、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものを「証券取引所」といいます。以下同じ。)等にお

ける取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込みの受け付けを中止することおよびすでに受け付けた取得申込の受け付けを取り消すことができます。

前項により受益権の取得申込の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の取得申込の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその取得申込の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の取得申込の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に取得申込の実行の請求を受け付けたものとして、第1項の規定に準じて取り扱うものとします。

(受益権の譲渡に係る記載または記録)

第12条 受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、前項の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、前項の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等(当該他の振替機関等の上位機関を含みます。)に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口座の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

委託者は、第1項に規定する振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(受益権の譲渡の対抗要件)

第13条 受益権の譲渡は、前条の規定による振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

(投資の対象とする資産の種類)

第14条 この信託において投資の対象とする資産の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産(「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。)
  - イ. 有価証券
  - ロ. デリバティブ取引(金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、約款第21条、第22条および第23条に定めるものに限りません。)
  - ハ. 金銭債権
  - ニ. 約束手形
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
  - イ. 為替手形

(運用の指図範囲等)

第15条 委託者は、信託金を、主として次の有価証券(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。)に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券(新株引受権証券と社債券が一体となった新株引受権付社債券(以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。))の新株予約権証券を除きます。)
6. 資産の流動化に関する法律に規定する特定社債券(金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。)
7. 特別の法律により設立された法人の発行する出資証券(金融商品取引法第2条第1項第6号で定

めるものをいいます。)

8. 協同組織金融機関に係る優先出資証券(金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。)
9. 資産の流動化に関する法律に規定する優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券(金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。)
10. コマーシャル・ペーパー
11. 新株予約権証券(分離型新株予約権付社債券の新株予約権証券を含みます。以下同じ。)
12. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前各号の証券または証書の性質を有するもの
13. 投資信託または外国投資信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。)
14. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
15. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
16. オプションを表示する証券または証書(金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限ります。)
17. 預託証書(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)
18. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
19. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
20. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
21. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
22. 外国の者に対する権利で前号の有価証券の性質を有するもの

なお、第1号の証券または証書、第12号ならびに第17号の証券または証書のうち第1号の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、第2号から第6号までの証券および第12号ならびに第17号の証券または証書のうち第2号から第6号までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、第13号の証券および第14号の証券を以下「投資信託証券」といいます。

委託者は、信託金を、前項に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。以下本条において同じ。)により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
6. 外国の者に対する権利で前号の権利の性質を有するもの

第1項の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託者が運用上必要と認めるときは、委託者は、信託金を、前項第1号から第6号までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

委託者は、信託財産に属する投資信託証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の5を超えることとなる投資の指図をしません。

委託者は、取得時において、信託財産に属する新株予約権証券の時価総額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。

(利害関係人等との取引等)

第16条 受託者は、受益者の保護に支障を生じることがないものであり、かつ信託業法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、委託者の指図により、信託財産と、受託者(第

三者との間において信託財産のためにする取引その他の行為であって、受託者が当該第三者の代理人となつて行うものを含みます。) および受託者の利害関係人(金融機関の信託業務の兼営等に関する法律にて準用する信託業法第 29 条第 2 項第 1 号に規定する利害関係人をいいます。以下本条および第 27 条において同じ。) 第 27 条第 1 項に定める信託業務の委託先およびその利害関係人または受託者における他の信託財産との間で、第 14 条および第 15 条第 1 項ならびに第 2 項に定める資産への投資等ならびに第 18 条、第 20 条から第 25 条、第 30 条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことができます。

受託者は、受託者がこの信託の受益者としての権限に基づいて信託事務の処理として行うことができる取引その他の行為について、受託者または受託者の利害関係人の計算で行うことができるものとします。なお、受託者の利害関係人が当該利害関係人の計算で行う場合も同様とします。

委託者は、金融商品取引法、投資信託及び投資法人に関する法律ならびに関連法令に反しない場合には、信託財産と、委託者、その取締役、執行役および委託者の利害関係人等(金融商品取引法第 31 条の 4 第 5 項および同条第 6 項に規定する親法人等又は子法人等をいいます。) または委託者が運用の指図を行う他の信託財産との間で、第 14 条および第 15 条第 1 項および第 2 項に定める資産への投資等ならびに第 18 条、第 20 条から第 25 条、第 30 条に掲げる取引その他これらに類する行為を行うことの指図をすることができ、受託者は、委託者の指図により、当該投資等ならびに当該取引、当該行為を行うことができます。

前 3 項の場合、委託者および受託者は、受益者に対して信託法第 31 条第 3 項および同法第 32 条第 3 項の通知は行いません。

(運用の基本方針)

第 17 条 委託者は、信託財産の運用にあたっては、別に定める運用の基本方針にしたがって、その指図を行います。

(投資する株式等の範囲)

第 18 条 委託者が投資することを指図する株式および新株予約権証券は、金融商品取引所等に上場されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所等に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割または社債権者割当により取得する株式および新株予約権証券については、その限りではありません。

前項の規定にかかわらず、上場予定の株式および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託者が投資することを指図することができるものとします。

(同一銘柄の転換社債等への投資制限)

第 19 条 委託者は、取得時において信託財産に属する同一銘柄の転換社債ならびに転換社債型新株予約権付社債の時価総額が、信託財産の純資産総額の 100 分の 10 を超えることとなる投資の指図をしません。

(信用取引の指図範囲)

第 20 条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

前項の信用取引の指図は、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により、当該売付けに係る建玉の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済するための指図をするものとします。

(先物取引等の運用指図)

第 21 条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券先物取引(金融商品取引法第 28 条第 8 項第 3 号イに掲げるものをいいます。) 有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第 28 条第 8 項第 3

号口に掲げるものをいいます。)および有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号八に掲げるものをいいます。)を行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。

委託者は、金利に係る先物取引およびオプション取引を行うことの指図をすることができます。

(スワップ取引の運用指図)

第22条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、異なった受取金利、または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。

スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等を基に算出した価額で評価するものとします。

委託者は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(金利先渡取引の運用指図)

第23条 委託者は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、金利先渡取引を行うことの指図をすることができます。

金利先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として第3条に定める信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。

金利先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。

委託者は、金利先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

(有価証券の貸付けの指図および範囲)

第24条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する有価証券を次の各号の範囲内で貸付けの指図をすることができます。

1. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が信託財産で保有する株式の時価合計額を超えないものとします。
2. 公社債の貸付けは、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額を超えないものとします。

前項各号に定める限度額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

委託者は、有価証券の貸付けにあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

(有価証券の空売りの指図範囲)

第25条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産において有しない有価証券または第26条の規定により借入れた有価証券を売付けの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、売付けた有価証券の引渡または買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。

前項の売付けの指図は、当該売付けに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により前項の売付けに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する売付けの一部を決済す

るための指図をするものとします。

(有価証券の借入れ)

第 26 条 委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、有価証券の借入れの指図をすることができます。なお、当該有価証券の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとします。

前項の借入れの指図は、当該借入れに係る有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。

信託財産の一部解約等の事由により前項の借入れにかかる有価証券の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた有価証券の一部を返還するための指図をするものとします。

第 1 項の借入れにかかる品借料は信託財産中から支弁します。

(信託業務の委託等)

第 27 条 受託者は、委託者と協議のうえ、信託業務の一部について、信託業法第 22 条第 1 項に定める信託業務の委託をするときは、以下に掲げる基準のすべてに適合するもの(受託者の利害関係人を含みます。)を委託先として選定します。

1. 委託先の信用力に照らし、継続的に委託業務の遂行に懸念がないこと
2. 委託先の委託業務に係る実績等に照らし、委託業務を確実に処理する能力があると認められること
3. 委託される信託財産に属する財産と自己の固有財産その他の財産とを区分する等の管理を行なう体制が整備されていること
4. 内部管理に関する業務を適正に遂行するための体制が整備されていること

受託者は、前項に定める委託先の選定にあたっては、当該委託先が前項各号に掲げる基準に適合していることを確認するものとします。

前 2 項にかかわらず、受託者は、次の各号に掲げる業務を、受託者および委託者が適当と認める者(受託者の利害関係人を含みます。)に委託することができるものとします。

1. 信託財産の保存に係る業務
2. 信託財産の性質を変えない範囲内において、その利用または改良を目的とする業務
3. 委託者のみの指図により信託財産の処分およびその他の信託の目的の達成のために必要な行為に係る業務
4. 受託者が行なう業務の遂行にとって補助的な機能を有する行為

(混蔵寄託)

第 28 条 金融機関または第一種金融商品取引業者(金融商品取引法第 28 条第 1 項に規定する第一種金融商品取引業を行なう者および外国の法令に準拠して設立された法人でこの者に類する者をいいます。以下本条において同じ。)から、売買代金および償還金等について円貨で約定し円貨で決済する取引により取得した外国において発行された譲渡性預金証書またはコマーシャル・ペーパーは、当該金融機関または第一種金融商品取引業者が保管契約を締結した保管機関に当該金融機関または第一種金融商品取引業者の名義で混蔵寄託できるものとします。

(信託財産の登記等および記載等の留保等)

第 29 条 信託の登記または登録をすることができる信託財産については、信託の登記または登録をすることとします。ただし、受託者が認める場合は、信託の登記または登録を留保することがあります。

前項ただし書きにかかわらず、受益者保護のために委託者または受託者が必要と認めるときは、速やかに登記または登録をするものとします。

信託財産に属する旨の記載または記録をすることができる信託財産については、信託財産に属する旨の記載または記録をするとともに、その計算を明らかにする方法により分別して管理するものとします。ただし、受託者が認める場合は、その計算を明らかにする方法により分別して管理することがあります。

動産(金銭を除きます。)については、外形上区別することができる方法によるほか、その計算を明

らかにする方法により分別して管理することがあります。

(有価証券の売却等の指図)

第30条 委託者は、有価証券の売却等の指図ができます。

(再投資の指図)

第31条 委託者は、前条の規定による有価証券の売却代金、有価証券に係る償還金等、有価証券等に係る利子等およびその他の収入金を再投資することの指図ができます。

(資金の借入れ)

第32条 委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。

収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

借入金の利息は信託財産中より支弁します。

(損益の帰属)

第33条 委託者の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

(受託者による資金の立替え)

第34条 信託財産に属する有価証券について、借替、転換、新株発行または株式割当がある場合で、委託者の申出があるときは、受託者は資金の立替えをすることができます。

信託財産に属する有価証券に係る償還金等、株式の清算分配金、有価証券等に係る利子等、株式の配当金およびその他の未収入金で、信託終了日までにその金額を見積もりうるものがあるときは、受託者がこれを立替えて信託財産に繰入れることができます。

前2項の立替金の決済および利息については、受託者と委託者との協議によりそのつど別途これを定めます。

(信託の計算期間)

第35条 この信託の計算期間は、毎年3月28日から翌年3月27日までとすることを原則とします。

前項にかかわらず、前項の原則により各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は、該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

(信託財産に関する報告等)

第36条 受託者は、毎計算期末に損益計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

受託者は、信託終了のときに最終計算を行い、信託財産に関する報告書を作成して、これを委託者に提出します。

受託者は、前2項の報告を行うことにより、受益者に対する信託法第37条第3項に定める報告は行わないこととします。

受益者は、受託者に対し、信託法第37条第2項に定める書類または電磁的記録の作成に欠くことのできない情報その他の信託に関する重要な情報および当該受益者以外の者の利益を害するおそれのない情報を除き、信託法第38条第1項に定める閲覧または謄写の請求をすることはできないものとしま

す。

( 信託事務の諸費用および監査費用 )

第 37 条 信託財産に関する租税、信託事務の処理等に関する諸費用、受託者の立替えた立替金の利息( 第 2 項各号に掲げる諸費用を含め、以下「諸経費」といいます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

前項に定める諸経費のほか、以下の諸費用( 消費税等相当額を含みます。)は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁することができます。

1. 振替受益権にかかる費用ならびにやむを得ない事情などにより受益証券を発行する場合における発行および管理事務に係る費用
2. 有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書( これらの訂正も含みます)の作成、印刷および提出に係る費用
3. 目論見書および仮目論見書( これらの訂正事項分を含みます。)の作成、販売用資料、商品内容説明用資料の作成、印刷および交付に係る費用
4. 信託約款の作成、印刷および届出に係る費用
5. 運用報告書の作成、印刷および交付に係る費用
6. この信託の受益者に対して行う公告に係る費用ならびに信託約款の変更または信託契約の解約に係る事項を記載した書面の作成、印刷および交付に係る費用
7. この信託の法律顧問および税務顧問に対する報酬および費用
8. 会計監査費用

委託者は、上記の諸費用の支払いを信託財産のために行い、その金額を合理的に見積もった結果、信託財産の純資産総額に年 10,000 分の 10 の料率を乗じて得た金額を上限とする額を、かかる諸費用の合計額とみなして、実際の金額のいかにかわらず、信託財産より受領することができます。ただし、委託者は、信託財産の規模等を考慮して、信託の設定時または期間中に、随時、上記の料率の範囲内で諸費用の年率を見直して、それを変更することができます。

上記の諸費用は、第 35 条に規定する計算期間を通じて毎日計上されます。かかる諸費用ならびに当該諸費用に対する消費税および地方消費税相当額は、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産中から委託者に対して支弁されます。

( 信託報酬等の総額および支弁の方法 )

第 38 条 委託者および受託者の信託報酬の総額は第 35 条に規定する計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年 10,000 分の 164 の率を乗じて得た金額とします。

前項の信託報酬は、毎計算期間の最初の 6 ヶ月終了日および毎計算期末、または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとし、委託者と受託者との間の配分は別に定めます。

第 1 項に規定する信託報酬に係る消費税等に相当する金額を、信託報酬等支弁のときに信託財産中から支弁します。

( 収益の分配方式 )

第 39 条 信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

1. 分配金、利子およびこれ等に類する収益から支払利息を控除した額( 以下「配当等収益」といいます。)は、諸経費、信託報酬等および当該信託報酬等に係る消費税等に相当する金額を控除した後、その残額を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。
2. 売買損益に評価損益を加減した利益金額( 以下「売買益」といいます。)は、諸経費、信託報酬等および当該信託報酬等に係る消費税等に相当する金額を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補填した後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配金にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。

毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

( 収益分配金、償還金および一部解約金の払い込みと支払いに関する受託者の免責 )

第 40 条 受託者は、収益分配金については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日までに、償還金 ( 信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権総口数で除した額をいいます。以下同じ。 ) については第 41 条第 3 項に規定する支払開始日までに、一部解約金については第 41 条第 4 項に規定する支払日までに、その全額を委託者の指定する預金口座等に払い込みます。

受託者は、前項の規定により委託者の指定する預金口座等に収益分配金、償還金および一部解約金を払い込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

( 収益分配金、償還金および一部解約金の支払い )

第 41 条 収益分配金は、毎計算期間終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から、毎計算期間の末日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者 ( 当該収益分配金に係る計算期間の末日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。 ) に支払います。

前項の規定にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者に対しては、受託者が委託者の指定する預金口座等に払い込むことにより、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が委託者の指定する販売会社に交付されます。この場合、委託者の指定する販売会社は、受益者に対し滞りなく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行いません。当該売付けにより増加した受益権は、第 9 条第 3 項の規定にしたがい、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金は、信託終了日後 1 ヶ月以内の委託者の指定する日から、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者 ( 信託終了日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため委託者の指定する販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として支払います。 ) に支払います。なお、当該受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して委託者がこの信託の償還をするのと引き換えに、当該償還に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

一部解約金 ( 第 43 条第 4 項の一部解約の価額に当該一部解約口数を乗じて得た額をいいます。以下同じ。 ) は、第 43 条第 1 項の受益者の請求を受け付けた日から起算して、原則として 5 営業日目から当該受益者に支払います。

前各項 ( 第 2 項を除きます。 ) に規定する収益分配金、償還金および一部解約金の支払いは、委託者の指定する販売会社の営業所等において行うものとし、

収益分配金、償還金および一部解約金に係る収益調整金は、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額等に応じて計算されるものとし、

前項に規定する「収益調整金」は、所得税法施行令第 27 条の規定によるものとし、各受益者毎の信託時の受益権の価額と元本との差額をいい、原則として、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、また、前項に規定する「各受益者毎の信託時の受益権の価額等」とは、原則として、各受益者毎の信託時の受益権の価額をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均され、収益分配のつど調整されるものとし、

( 収益分配金および償還金の時効 )

第 42 条 受益者が、収益分配金について第 41 条第 1 項に規定する支払開始日から 5 年間その支払いを請求しないとき、ならびに信託終了による償還金については第 41 条第 3 項に規定する支払開始日から 10 年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託者から交付を受けた金銭は、委託者に帰属します。

( 信託契約の一部解約 )

第 43 条 受益者は、自己に帰属する受益権につき、1 口の整数倍をもって一部解約の実行を請求することがで

きます。

前項の一部解約の実行の請求を受益者がするときは、委託者の指定する販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

委託者は、第1項の一部解約の実行の請求を受付けた場合には、この信託契約の一部を解約します。なお、第1項の一部解約の実行の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの信託契約の一部解約を委託者が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

前項の一部解約の価額は、一部解約の実行請求日の基準価額から当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額とします。

委託者は、金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、第1項による一部解約の実行の請求の受付を中止することができます。

前項により一部解約の実行の請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして、第5項の規定に準じて算出した価額とします。

(質権口記載または記録の受益権の取扱い)

第44条 振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、この約款によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

(信託契約の解約)

第45条 委託者は、信託期間中において、信託契約の一部を解約することにより、この信託にかかる受益権の口数が20億口を下回ったとき、またはこの信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。

委託者は、前項の事項について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知られたる受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

前項の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知られたる受益者が議決権を行使しないときは、当該知られたる受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

第2項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の半数以上であって、当該受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。

第2項から前項までの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状況に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、第2項から前項までに規定するこの信託契約を解約の手続きを行うことが困難な場合には適用しません。

(信託契約に関する監督官庁の命令)

第46条 委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信託契約を解約し信託を終了します。

委託者は、監督官庁の命令に基づいてこの信託約款の変更をしようとするときは、第50条の規定に

従います。

(委託者の登録取消等に伴う取扱い)

第 47 条 委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。

前項の規定にかかわらず、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は第 50 条第 2 項の書面決議が否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者の間において存続します。

(委託者の事業の譲渡および承継に伴う取扱い)

第 48 条 委託者は、事業の全部又は一部を譲渡することがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を譲渡することがあります。

委託者は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあり、これに伴い、この信託契約に関する事業を承継させることがあります。

(受託者の辞任および解任に伴う取扱い)

第 49 条 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由が生じたときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、第 51 条の規定に従い新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行う場合を除き、受託者を解任することはできないものとします。

委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し信託を終了させます。

(信託約款の変更等)

第 50 条 委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第 16 条第 2 号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができないものとします。

委託者は、前項の事項(前項の変更事項にあつては、その内容が重大なものに該当する場合に限り)について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の 2 週間前までに、この信託約款に係る知られたる受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。

前項の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。以下本項において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知られたる受益者が議決権を行使しないときは、当該知られたる受益者は書面決議について賛成するものとみなします。

第 2 項の書面決議は議決権を行使することができる受益者の半数以上であつて、当該受益者の議決権の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行います。

書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。

第 2 項から前項までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。

前各項の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一又は複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行うことはできません。

(反対者の買取請求権)

第51条 第45条に規定する信託契約の解約または前条に規定する重大な約款の変更等を行う場合には、書面決議において当該解約または重大な約款の変更等に反対した受益者は、受託者に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取すべき旨を請求することができます。

前項の買取請求の取扱いについては、第45条第2項または前条第2項に規定する書面に付記します。

(信託期間の延長)

第52条 委託者は、信託期間満了前に、信託期間延長が受益者に有利であると認めたときは、受託者と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

(他の受益者の氏名等の開示の請求の制限)

第53条 この信託の受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行なうことはできません。

1. 他の受益者の氏名または名称および住所
2. 他の受益者が有する受益権の内容

(公告)

第54条 委託者が受益者に対してする公告は、電子公告により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.sparx.co.jp/>

前項の規定に関わらず、事故その他やむを得ない事由によって公告を電子公告によって行うことができない場合には、公告は日本経済新聞に掲載することとします。

(信託約款に関する疑義の取扱い)

第55条 この信託約款の解釈について疑義が生じたときは、委託者と受託者の協議により定めます。

## 附 則

第1条 第23条に規定する「金利先渡取引」は、当事者間において、あらかじめ将来の特定の日(以下「決済日」といいます。)における決済日から一定の期間を経過した日(以下「満期日」といいます。)までの期間に係る国内または海外において代表的利率として公表される預金契約または金銭の貸借契約に基づく債権の利率(以下「指標利率」といいます。)の数値を取り決め、その取り決めに係る数値と決済日における当該指標利率の現実の数値との差にあらかじめ元本として定めた金額および当事者間で約定した日数を基準とした数値を乗じた額を決済日における当該指標利率の現実の数値で決済日における現在価値に割り引いた額の金銭の授受を約する取引をいいます。

上記条項により信託契約を締結します。

平成20年3月28日

(信託契約締結日)

委託者 東京都品川区大崎一丁目11番2号ゲートシティ大崎  
スパークス・アセット・マネジメント株式会社

受託者 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社



SPARX Asset Management Co., Ltd.